

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	商店街（代表者）	・気温が高くなってきたのに伴い、人の動きが大変良くなっている。歩きながら買物に出かける人が非常に増えており、観光客も増えていることから、今後については良くなる。
	やや良くなる	観光型ホテル（経営者）	・9月以降の国内ツアー客が増加しつつある。ただし、国内外の経済社会情勢が安定しなければ、ツアー募集を行っても参加者が増えないため、予断は許されない状況である。
	変わらない	商店街（代表者）	・諸物価の上昇や、冬に向けての灯油価格の高騰などの影響から、秋冬物の動き始めの時期において、定価品の動きがやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリン高騰の影響で、遠くのスーパーへ行かず、近くのコンビニで消費する傾向が強まっている。しかし、客の低単価志向は依然として強く、また秋冬に向けて燃料費がかさむ北海道において生活費の圧縮は必ず起こることであるため、今後については、消費の拡大は望めない。
		乗用車販売店（従業員）	・車の売上が上がらない状態が普通になってきている。サービス分野での収益確保に力を注いでいる状況にあり、今後も厳しいまま変わらない。
		タクシー運転手	・この先も原油高騰による各種商品の値上げが目白押しとなっており、消費者の節約気運はより一層厳しくなる。特にタクシーに関しては真っ先に節約されることになる。
		タクシー運転手	・この先数か月で、諸物価の値上げが収まったり、石油製品の価格が下がるとは考えられないため、今の景気の悪い状態がこのまま続く。
		タクシー運転手	・毎年この季節になると中央競馬の函館開催が行われ、売上が増えるが、前年に比べると増加幅が縮小している。また、夏祭りの開催も相次いでいるが、前年より盛り上がりに欠けるようだ。これらのことから、この先景気が良くなる要因が見当たらない。
		やや悪くなる	商店街（代表者）
	商店街（代表者）	・すべての物が値上がりしてきている。この傾向は当分の間、続くことが見込まれるため、今後の景気は悪くなる。	
	一般小売店〔土産〕（経営者）	・燃料や生活必需品の値上がりの影響で、外出や遠出を控えるようになるため、今後についてはやや悪くなる。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	・秋口に入ると、そろそろ北海道は暖房が必要になってくる。今の原油高による灯油高が続いたままであれば、家庭の消費を大きく圧迫することになる。特に、外食や飲食の分野が真っ先に消費をカットされることになり、得意先である飲食店に多大な影響が出るのが懸念される。	
	百貨店（売場主任）	・北海道は、建設業を中心に景気の良くない話ばかり出ていることで、それほど景気に左右されない人の財布のひもも固くなっていることから、今後についてはやや悪くなる。	
	百貨店（販売促進担当）	・今後も諸物価の値上げが継続することになり、顧客の購買意欲は上がらない。節約志向に飽きぐるまで、小売業界は厳しい状態が続く。休日も家や近場で過ごす人が増えていることから、カジュアルな低単価ファッション商材は前年並みの売上を維持できそうだが、ファッション性、価格共に高めの商材は苦戦する。	
	百貨店（役員）	・節約志向が長期化しているなか、我慢の限界で多少主婦層の購買が増えているようだが、ほんの一時の現象であり、今後についてはやや悪くなる。	
スーパー（店長）	・6月から来客数、販売量共に伸びがみられない。原油高騰に伴う商品価格の上昇が客の消費行動にブレーキを掛けていることから、今後についてもやや悪くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・7月からの食品値上げ前の買いだめ需要からか、6月の中下旬に買上点数の上昇がみられたものの、その反動で7月の買上点数が落ち込んでおり、売上状況も厳しくなっている。今後も食品、ガソリン、電気料金等の値上げが見込まれていることから、客の生活防衛的な消費行動はますます強くなる。
		スーパー（役員）	・光熱費、ガソリン等の値上げ、可処分所得の減少が、食品分野にまで影響していることが買上点数の減少に現れている。今後、冬に向けて灯油等の燃料費が前年を上回ることには間違いなく、ますます慎重な消費活動になる。
		コンビニ（エリア担当）	・客が外出を控え気味であること、また価格の安い商品が売れていることから、今後もお金をかけない生活が拡大していく。
		コンビニ（エリア担当）	・タスポ効果はまだ持続しそうだが、ガソリン価格高騰の影響で、客単価の低下や買上点数の減少がみられ、お盆時期の売上の減少が懸念される。また、農業、漁業の打撃も深刻な様子であり、秋以降はタスポ効果が薄れてくる可能性が高い。
		コンビニ（エリア担当）	・食品の値上げが追い討ちをかけることになる。プライベートブランド商品も値上げしてきている。漁業等の収益悪化の影響を受け、消費は更に厳しさを増すことになり、経済状況は悪くなっていく。
		衣料品専門店（店長）	・今後も物価の上昇が続くことが見込まれるため、今後については期待できない。
		家電量販店（地区統括部長）	・家電需要全体としては、薄型テレビ等のオリンピック特需の反動で、年末まで非常に厳しい状況が続くことになる。
		乗用車販売店（営業担当）	・市場が活性化する要因が見当たらないことから、今後についてはやや悪くなる。
		住関連専門店（従業員）	・物価高が消費の冷え込みを拡大させる。
		高級レストラン（スタッフ）	・食品の値上がりが続く、レストランでは企業努力も限界を超えている。メニューの工夫や食材選びで多少は改善できても、来客数客が減少しているため、効果が薄いと感じる。世の中では次々に社会不安が噴出しており、飲食店が経営を続けていけるような明るい兆しは一向に見えてこない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・観光ビジネスは景気の動きに連動している部分があるが、ガソリンの高騰、原材料の値上げなどから、今後については販売量、高単価商品共に期待できない状況にある。
		旅行代理店（従業員）	・諸物価の高騰、燃油サーチャージの高騰など、原油高の影響を直に受けている。原油の高騰が沈静化されない限り、景気が好転することは期待できない。
		通信会社（企画担当）	・携帯電話等の通信端末の子供の利用に対する批判が高まりつつあるなか、子供の通信利用が減少することで、通信収入の減少につながる懸念される。
		観光名所（役員）	・今後、国内的には、ガソリン価格を含む諸物価の高止まりによる旅行控えが見込まれる。また、9月以降、最寄りの空港への海外チャーター便の減便が見込まれている。国内外共に、観光面についてはマイナスの材料しか見当たらず、当面は厳しい状況が続く。
		美容室（経営者）	・灯油価格が130円台に到達している。北海道では9月より本格的に灯油を使用しなくてはならないため、それに伴って他の支出を抑える傾向がかなり強く出てくる。
		美容室（経営者）	・客との会話から、諸物価の値上がり、特に灯油の値上がりに対して強い警戒感を持っていることが感じられる。2～3か月前は、灯油の消費時期に入る頃であり、家計への配慮から来店サイクルの悪化、店販商品の買い控えが心配される。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅需要がどん底のまま変わらない一方で、原材料価格やエネルギー価格の高騰の影響などで、経費やコスト負担が増加しており、今後も厳しい状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・資材価格が日々上昇しているのに対し、施主の予算は減少傾向にあり、仕事として成立しないものが増えていることから、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる	百貨店（売場主任）	・このまま原油価格が高止まりすることになれば、冬の生活に欠かせない灯油やガスが更に値上げすることになり、一層厳しさを増すことになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・長期予報によると、今後は暑くなり、残暑も厳しいことから、秋物の動きが非常に懸念される。それと同時に8月から灯油価格が高くなるため、消費者の買い控えが生じることも懸念される。
		スーパー（店長）	・冬に向け、灯油代の値上がりが深刻化し、生活を直撃するようになる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・石油製品価格の大幅値下げの見通しもないため、より一層節約、倹約が行われることになる。
		一般レストラン（スタッフ）	・調味料や食材の高騰が続いているが、販売価格に転嫁できない状態にある。競合する他店の動向を見ながら、他店が値上げするまで我慢比べをしている状態であり、今後も厳しさが増してくる。
		旅行代理店（従業員）	・ガソリン代の高騰がレジャーに与える影響が大きいことから、今後については悪くなる。
		タクシー運転手	・規制緩和後、札幌ではタクシーの台数が約2割増えているにもかかわらず、7月に新しいタクシー会社が参入しており、ますます過当競争が激しくなっている。さらに燃料の値上がりで経費が増えている。売上が減少していることもあり、今後はますます悪くなるばかりである。
		タクシー運転手	・景気について楽観的な話をする乗客が1人もいないことから、今後については悪くなる。
		設計事務所（所長）	・建築に関して、新たに受注が伸びそうな分野が見当たらないため、今後については悪くなる。
		設計事務所（職員）	・相次ぐ建設会社の指名停止が公共事業の継続に大きな支障をもたらすことになる。公共工事と建設需要への依存度が高い北海道経済に大きなダメージを与えることが見込まれる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	食料品製造業（役員）	・製品の販売価格の値上げが今よりは多少進むと考えられるが、原材料や燃料の値上げも引き続き行われるため、今後も状況は変わらない。
		家具製造業（経営者）	・住宅着工数の減少、公共事業の縮小など、不安材料が山積みであるため、今後も状況は変わらない。
		金融業（企画担当）	・原材料価格上昇の影響で企業の収益面は極めて厳しい。一方、洞爺湖サミット開催効果で秋の観光は堅調が見込まれる。また、家計部門も灯油の需要期に入ることもあり、生活防衛意識は更に強まる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・今後もコスト高は続くと思うが、外注化による経費削減が一層進むことで、トータルでは大きな変化はないと見込まれる。
	やや悪くなる	通信業（営業担当）	・取引先の動向をみると、今年度下期の業績の下方修正、予算の縮小など、業績悪化に対する備えをする動きが顕著となっている。
その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）		・10月以降の受注がはっきりしない。下半期の始まりなので、上期当初と同じように、仕事の立ち上がりが11～12月頃にずれ込むような気配がある。	
悪くなる	輸送業（支店長）	・建築業界を取り巻く環境が悪化しているなか、金融機関の融資姿勢も厳しくなっていることから、秋口にかけて、道内経済が大きく落ち込むことが懸念される。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・原材料高に苦しむ企業が多いなか、基幹産業である農業が踏ん張っており、収穫期に向けて人材の確保に努めている。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人数が前年比で10.7%減少しており、20か月連続で前年を下回っていることから、今後についても厳しいまま変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・複数内定者が多いため、内定者が辞退した場合、企業が補充を行うのか、次年度採用枠にスライドさせるのかが不明瞭である。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・地元大手建設業の破産申請に伴い、200名近くの従業員が離職を余儀なくされたことから、今後については大変厳しい状況になる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・マイナス要因は色々挙げることができるが、求人数の増加に寄与する材料は思い当たらない。どこまで状況が悪化していくのか見通しがつかない。

2. 東北(地域別調査機関:(財)東北開発研究センター)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	衣料品専門店(店長)	・気に入った商品を厳選する傾向は変わらないが、乗客数が増えてきており、たんす在庫にはない魅力ある商品提案が実を結びつつある。
		乗用車販売店(経営者)	・秋に小型自動車、軽自動車それぞれ1車種のモデルチェンジが予定されている。また、コンパクトカーやミニバンの人気車種の好調さが継続する。
		その他専門店[化粧品](経営者)	・ガソリン価格の高騰を背景に、車で郊外に買物に行く回数がやや減少し、公共交通機関や自転車、徒歩で中心街区まで来て買物をするという客の動きが以前より増加する。
		住宅販売会社(従業員)	・現在の受注状況では、前年を上回る見通しであり、高額物件も入っている。
	変わらない	商店街(代表者)	・周辺地域の新たな大型商業施設の誕生に抜本的対応策を打ち出しかねている。中央資本の飲食店の撤退もうわさされ、跡地決定が遅れているのも大きな問題となっている。
		一般小売店[カメラ](店長)	・現在の状況からすれば、行楽の写真プリントは少なくなるものの、カメラの販売は新製品の発売もあり期待できる。
		百貨店(企画担当)	・これからも物価上昇が予想され、消費者マインドが低い状況は続く。6月以降、東北では大きな地震が多発しているが、影響が早く沈静化することを願っている。
		百貨店(経営者)	・ボーナス支給額の減少、物価上昇などにより、消費意欲が減退する。特に、バーゲン終了後の売上は大きく落ち込む。
		スーパー(店長)	・メーカーから食料品値上げの要請が頻繁にあり、今後も購買点数が伸びず、買い控えの状況が続く。
		コンビニ(エリア担当)	・値段が安い商品に売れ筋がシフトしているため、客単価は回復しない。
		衣料品専門店(店長)	・原油高騰による物価上昇は続き、今後もビジネスウェアの買い控えが続く。
		衣料品専門店(総務担当)	・ガソリンや食料品の値上げに伴い、趣味の要素が強いゴルフ用品が不振であり、今後も消費は控えめに動く。
		乗用車販売店(経営者)	・目立った新型モデルの予定もなく、ガソリン価格上昇も歯止めが掛からないため、自動車保有数の減少が懸念される。買換えが進む一方で廃車も増えるなど、良くて現状維持と予想している。
		住関連専門店(経営者)	・あらゆる物の値段が上がり、消費者マインドがますます冷え込んでいるため、景気回復はしばらく見込めない。
		その他専門店[呉服](経営者)	・値上がりムードのため、品物は売れない。
		その他専門店[白衣・ユニフォーム](営業担当)	・8月もガソリンの値上げが予定されており、先行きに対する期待感はない。最近、季節のずれを感じており、衣替えも一斉に行われなくなったことから、売上にもばらつきが生じる。
		高級レストラン(経営者)	・地方では景気上昇がほとんどみられないまま、あまり良くない状況が続いていたため、これ以上悪くなることもなく進んでいく。
		高級レストラン(支配人)	・宿泊部門とレストランの状況は変わらず、婚礼が伸びている。一般宴会を今後どのように増やしていくか課題となっている。
		観光型ホテル(経営者)	・8、9月は前年並みとなる見込みであるが、旅行シーズンである10月以降の伸びが少ない。岩手・宮城地震の発生後にキャンセルした客は徐々に戻ってきている。
	美容室(経営者)	・乗客数は同数で推移しており、今後も同じ状況が続く。	
	美容室(経営者)	・ガソリン価格や物価高騰の状況が変わらない限り、景気回復は見込まれない。	
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・政治や経済の状況から、景気が良くなる材料が見当たらない。
		商店街(代表者)	・景気低迷からの回復気配がないなかで、オリンピックが開幕すれば、テレビ観戦のため、特に飲食店の夜の時間帯の客足が遠のき、マイナス要素が加わる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・周囲では多くの事業者がぎりぎりのやりくりをしている様子がみられ、今後は淘汰が現実的に進んでいきそうである。また、職から離れた人々の購買力は、確実に低下していく。
		百貨店(営業担当)	・秋、冬場に暖房光熱費が掛かる寒冷地では、このまま原油高の傾向が続けば他の支出を削らざるを得ない。し好品や高額衣料、雑貨は間違いなく削られる対象となる。
		百貨店(販促担当)	・更なる物価の上昇や8月から始まるオリンピックの影響により来客数の減少が予想される一方、秋物商戦の好材料が今のところ見当たらない。
		百貨店(売場担当)	・原油高騰や食料品が値上げするなか、一番抑えるべきものは衣類であり、「あってもいい」という考えは「なくてもいい」に変わってきている。また、9月は厳しい残暑が予想されているため、秋冬物に大きな動きが出ることは考えにくい。
		百貨店(経営者)	・食料品の値上げ、ガソリンの高騰、公共料金の値上げなどが相次ぎ、購買意欲が低下している。
		スーパー(経営者)	・商品原価が上昇するなか、売価を値上げせざるを得ない。
		スーパー(経営者)	・収入が増える可能性がないなか、原油価格の高値安定や、物価上昇が今後も続けば、必然的に生活防衛の動きが出てくる。食料品を中心にシビアな買物をする状況が続く。
		スーパー(店長)	・収入が変わらないなか、物価が上昇し、家計は切り詰めるところがない状況にある。これから灯油が必要となる季節となれば、消費者は暖房費のねん出に苦しむことになる。
		スーパー(総務担当)	・8月はガソリンの他、乳製品関係などの価格が大きく上昇するため、家庭内食事、弁当などの商材は落ち込まないが、他は極めて厳しくなる。また、少々価格が安くても余分な買物は、一層少なくなり、買上点数が更に大きく減少する。
		コンビニ(エリア担当)	・郊外の観光地は明らかに客が減っている。一方、近郊のショッピングセンターは、車が入りきれないほど、人が入っている状況にある。ガソリン価格の高騰などに伴い、遠出を控える動きがあり、不安要因が残る。
		衣料品専門店(店長)	・物価が上がると衣・食・住の「衣」から削られる傾向があり、今後の物価や賃金の動向が非常に気になっている。
		乗用車販売店(経営者)	・レギュラーガソリンの小売価格が200円近くまで上昇すれば、乗り控え、買い控え、行動控えにより不景気が一気に加速する。
		住関連専門店(経営者)	・原油高によるガソリン等の価格高騰や、相次ぐ地震の影響により、客の買い控えがある。
		その他専門店〔酒〕 (営業担当)	・現在、清酒の値上げが少しずつ発表されている。値上げは、9月後半から10月にかけて、業界一斉ではなく蔵元ごとに行われるが、その時期は一時的に売上の落ち込みが予想される。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕 (営業担当)	・あらゆる品物が値上げとなる一方で、所得が上がらず、使える金額が決まっているので、今後、値上げが進行すれば、業界として深刻な状況になる。
		一般レストラン(経営者)	・景気の悪さや上向かないことに慣れていたつもりであったが、最近では、更にトーンダウンしている。客や業者、タクシートの運転手、友人など周囲の人々が、景気の悪さや将来に対して不安を募らせている。
		一般レストラン(スタッフ)	・ガソリン価格が上昇するうちは、外食産業、特に車の利用者が多い郊外店への影響は大きい。
		観光型旅館(経営者)	・前年同月並みにしたいが、岩手北部地震や水害による風評被害により、客の出控え気分は免れ得ない。そのため、新幹線や高速バスの早見表や乗り継ぎプランのチラシを早めに多く作成したいと考えている。
		都市型ホテル(経営者)	・ここ2、3か月の来客数が減少している。以前は、来客数はそれほど変わらず、単価のダウンが気になっていたが、現在は、来客数、客単価共にダウンしており、この状況が続けばかなり悪い状態となる。
		都市型ホテル(スタッフ)	・原油原材料高、先行き不安などにより、多方面で出費を抑えてきている。
		旅行代理店(従業員)	・燃油サーチャージなど、原油価格に左右される原価の上昇や、食料品など、その他一般消費財の高騰により、海外旅行ばかりでなく、国内旅行の足も止まってしまう傾向にある。
		タクシー運転手	・岩手・宮城地震の影響か、旅行者や長距離客がだんだん少なくなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・客から、最近は原油高が響いて景気が悪いという話をよく聞く。また、日中のマイカー数が少なくなってきている。
		テーマパーク（職員）	・来客数、客単価が7月以降急落している。
		遊園地（経営者）	・秋にかけ、アウトレットモールなど新しい商業施設がいくつもオープンする予定であり、競争の激化に伴い他の業種への影響も懸念される。
	悪くなる	商店街（代表者）	・8～10月にかけて大型商業施設が相次いで開店するため、状況は一段と厳しさを増してくる。現在、シャッターが閉まった店は、80店舗中2店舗のみであるが、今後は予断を許さない状況になる。このような外部要因により、前年比で15～30%ダウンを覚悟している。
		百貨店（経営者）	・残暑が予想されるなか秋物プロパー品は簡単には売れそうもなく、気温が下がったとしても灯油価格の上昇が消費不振につながる。現在は季節的に灯油消費量が少ないが、灯油価格の上昇により今後確実に景気が悪化する。
		スーパー（経営者）	・原油、ガソリン、食料品、日用雑貨が値上げ基調であり、年末にかけて価格が更に上昇するのは確実である。所得が上がらない分、家計が圧迫されるため、客単価の下落傾向が顕著となる。
		スーパー（経営者）	・8月から食料品などの値上げが行われ、今後の2か月間で、再値上げ、再々値上げが行われる。
		スーパー（店長）	・ガソリンの高騰で帰省客の減少が予想され、物価高の影響もあり、消費が冷え込む可能性が高い。
		コンビニ（経営者）	・ガソリンや食料品価格の上昇により、来客数はますます減少する。
		コンビニ（経営者）	・毎月、毎週のように商品が値上がりしている。ガソリン価格の先行きも不透明である。
		衣料品専門店（経営者）	・ガソリン高や食料品の値上げの影響により、客は外出を抑えるようになり、買物も慎重になる。
		衣料品専門店（店長）	・秋物が本番となるが、原油高騰の影響で冬に向けた生活防衛の傾向が強まる。
		乗用車販売店（経営者）	・ガソリンを始めとした諸物価の高騰が家計を直撃しており、法人においてもコスト削減が限界に近づいている。最近相次いだ地震の風評被害により、観光シーズンにもかかわらずキャンセルが相次ぎ、県内のムードを一層悪くしている。したがって、景気浮揚の期待が全く持てない状況になっている。
		乗用車販売店（経営者）	・ガソリン、日用品、食料品の値上げに関する報道もあり、購買意欲はどん底まで落ちる。
		住関連専門店（経営者）	・原油高に伴い、原材料や食料品価格が高騰するなか、賃金が上がらないため、耐久消費財の売上は徐々に厳しくなっていく。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・ガソリン価格の上昇と比例して、消費者の買い控えの勢いは止まることなく、2、3か月先も改善する兆しは全くみえてこない。例年、お盆を過ぎると更に静かになるため、景気回復の期待は全くできない。
		一般レストラン（経営者）	・原材料費が上昇する一方で、税金が安くならず、収入も上がらない状況が続いており、我々のような家族経営ならばまだ良い方であるが、他店では従業員への給料の支払が大変であると聞いている。このような状況のなか、景気が良くなる要素はない。
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・ガソリンなどの高騰に伴い、あらゆる商品の原材料価格が上がるため、客の節約がますます進み、売上は落ちる。
		観光型旅館（経営者）	・最近の地震や、ガソリン、食品などの値上げラッシュにより、遊興関係や旅行には目が向かなくなってきている。景気が悪化する理由ばかりで上向くことは期待できない。
		観光名所（職員）	・前年同時期と比較して、予約客、フリー客が大幅に減少している。ガソリン価格に明るい兆しがみえない状況のなか、団体、フリー客共に増加する見込みはなく、悪くなる一方である。
		観光名所（職員）	・風評被害などの影響がすぐに回復するとは考えられない。
		競艇場（職員）	・原油価格の高騰に伴い物価が上昇し、消費を控える傾向となることから、娯楽に対してお金が回らず、景気が全体的に悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新しい設備を導入したが、取引が増える要素はない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・全体的な原材料高騰のしわ寄せが中小企業を直撃しており、直接的な支援でもない限り良くならない。
		建設業（経営者）	・資材から食料品まで物価上昇が続く限り、景気は良くならない。
		経営コンサルタント	・産地偽装や食料品の値上げ傾向に伴い、消費者の買い控えが続く。
		司法書士	・地方では不動産取引数が低迷して久しく、住宅着工件数も良く横ばいといった状況にあり、景気が回復する材料が乏しい。
		その他企業〔管理業〕（従業員）	・ガソリンなど燃料価格の高騰が落ち着くまで、この状態はしばらく続く。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・ももやりんごなど果樹は順調に生育しているが、ガソリン高などにより景気が悪化するなか、前年並みの注文を確保できるか心配している。
		食料品製造業（経営者）	・ガソリンや調味料など、生活必需品が軒並み値上げしていることを考えれば、今後、更に深刻な問題として、景気に影響してくる。
		建設業（企画担当）	・宮城県内及び周辺への企業進出が一気に具体化し仕事量が大きく伸びているが、各種材料の値上がりや手持工事のスライド問題などにより増量イコール増益にならない。
		輸送業（経営者）	・燃料、タイヤ、車価などのコスト上昇が予定されているが、料金交渉が進んでおらず、それによる収益悪化が予想される。
		金融業（広報担当）	・レジャーや外食に回せるお金がますます減ってきている。経済全体が縮小するなかで、現在の生活を維持するのが精一杯であり、景気が良くなることは考えられない。
		広告業協会（役員）	・オリンピック商戦でも大型テレビなどの売行きが芳しくないため、下期も受注件数が少なく厳しい状況が続く。
		広告代理店（経営者）	・ガソリンの高騰などにより郊外型の大型スーパーに行く回数が減少し、消費意欲が減退している。その結果、広告への投下量が減少する。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込チラシはマーケティングや売上動向をみて依頼の状況が決まるが、最近、その依頼数が不安定で、少なくなりつつあることから消費の減速、お金の回りが悪くなっている傾向を感じとれる。
		公認会計士	・取引先では内部での原価削減により利益を出している状況であるが、原材料や燃料価格の上昇に伴う収支の悪化が予想される。
	悪くなる	繊維工業（営業担当）	・諸物価の高騰により、消費者は買い控えが続く。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・原材料、ガソリン等の値上がり分を取引先に転嫁できていないため、収益状況が悪化している。競争が激しいなか、回復するのは困難である。
一般機械器具製造業（経理担当）		・自動車部品については、北米市場の悪化が長引くことが予想され、さらには原材料価格高騰によるコストアップ、円高の定着などにより、採算面でも悪化傾向にある。	
その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）		・メディアで値上げ情報が連日報道されているが、当社でも12月まで値上げの予定がびっしりと決められている。	
協同組合（職員）		・半導体製造や自動車関連の業種などでも先行きが非常に不透明であり、明るい材料が見当たらない。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・優秀な若手の人材確保は、企業の生命線であることから、今後大きく落ち込むことはない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の減少傾向は、今後もしばらく続く。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・4月に発生した県内大手建設会社倒産の影響により、今月には建設資材販売会社が民事再生法の手続きをとっている。その他にも、依然として続く燃料費の高騰により、企業の倒産、廃業が更に増えてくる。
		職業安定所（職員）	・建設業や、スーパー、機械部品製造業で、今後2～3か月の間に100～200人規模の解雇を実施する企業がみられる。
職業安定所（職員）		・平成21年3月の新規高校卒業予定者の求人数も前年度実績を下回っている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・事業所訪問で、原材料の高騰により四苦八苦している事業者や希望退職者を募っている事業者を目の前にすると、景気が上向き可能性は低いと考えざるを得ない。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・日雇い派遣の規制強化や、派遣社員から直接雇用への切替えなどから注文数が前年比で半減しており、3か月先の見通しは悪くなるとしか考えられない。

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・夏休みに入り県外からの観光客が増えている。また花火大会も控えており、タスポとの相乗効果が期待できる。
		衣料品専門店（統括）	・これから当地の祭りが10月にある。その祭りが終わるまで長い期間、客が動くのが例年の動きである。
	やや良くなる 変わらない	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・関連商品は仕入れるたびに値上がりしている。なんとか上げ幅を抑えながら売っているが限界に近い。
		百貨店（販売促進担当）	・ガソリン価格や諸物価高騰の波が収まらない限り、消費が活発になることはない。それに加え、近郊にショッピングセンターが2、3か所オープンしたため、競争は更に激しくなる。
		スーパー（販売促進担当）	・来客数は昨年比で下がってきているが、客単価が上がってきているため、昨年水準をクリアしている状況である。値上げ状況が常態化してきたため、買い控え傾向も一部の客については落ち着いてきている。
		スーパー（統括）	・気温次第であるが、価格さえ安くすれば集客はできている。
		コンビニ（店長）	・いろいろな商品の値上げが目白押しになっているので、全体的にはあまり良い結果にならない。当社の場合タスポの効果でたばこ関連の客が増加している。タスポ未作成の客は当分作成する気はないと言っているのでこの傾向はしばらく続く。
		衣料品専門店（店長）	・食品や燃料等の生活必需品の値上がりの影響を引きずり、財布のひもは固く、購買意欲の減退は続く。
		家電量販店（経営者）	・薄型テレビに動きが出てきているが、期待していたほどではない。オリンピック後の反動減の谷間も浅い。
		乗用車販売店（営業担当）	・ガソリンの高騰で客に車を買う余裕が無い。通常、金額が掛かる修理の場合、買替えを検討するが、迷わず修理を選んでいる。
		乗用車販売店（営業担当）	・予算的に中古車を要望する客が増えているが、新車があまり売れていないので、客の要望する中古車を探し出すのが大変で時間が掛かっている。
		乗用車販売店（販売担当）	・今の状況では、大型車種が全く売れない。ガソリン代が極端に何十円値下がりするとか、せめて20円でも30円下がれば、排気量の大きい車も多少売れてくるが、今のままでは全くといってよいほど大型車が売れない。販売車種を小型に絞っているが、小型車だけでは会社はやっていけない。2、3か月先もガソリン代が下がらないならば、調子は良くなる。
		住関連専門店（仕入担当）	・特段の変化が見られない。自転車通勤へのシフトなどの生活防衛が購買の仕方に現れている。必要以外の物は買わない、比較購買が顕著である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会受注が比較的安定してきているので少々期待しているが、宿泊の落ち込みがどの程度で底を打つのか判断しかねており、老朽化した施設に手をこまねいているのが現状である。
		タクシー運転手	・今後も地方ではタクシーを使う客は増えない。料金的には同じくらいである。
		タクシー運転手	・余計な出費を抑える傾向は今後も続く。長距離の利用が減り、特に貸切りで遠出の利用は皆無に近い。唯一、寝台、車椅子等の福祉車両の利用は堅調である。
		タクシー（経営者）	・夜の動きが良くないので、この先も変わらない。
遊園地（職員）	・原油価格の高騰や消費の冷え込みなど、厳しい状況は続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（従業員）	・単価の動きについては依然低調でそのまま推移する。来客数に関しては、若干季節柄の上向きはあるが、前年同様に推移すると考えられ、変わらない。
		ゴルフ場（従業員）	・来場者の予約数が増えない。
		設計事務所（所長）	・物件数が少ないので、8月のお盆前になんとか受注につながるよう、客と連絡を密に取り契約していきたい。
		住宅販売会社（従業員）	・毎年、盛夏の時期は現場見学会への来場者が減少するので、特に客の購入意欲の減退は感じられない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・学校も夏休みに入り、クラブ活動も急激に減る。昔はお盆にゴルフや野球等の大会があったが、今はそのような大会が少なくなったため、売上はぐんと落ちる。
		商店街（代表者）	・駅前商店街であるのに、来街者が少なく、また周辺のアパートも空き家が多く、人の動きが少ない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・季節商材の需要はそこそこだが、高額な物は売れず、利益が取れず、経費を賄えない。冬商材までの間に客の消費意欲が出てくれれば良いが、これと言って目新しい商材がない。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・たばこはタスポの導入により自動販売機の販売金額はこれまでの1割以下になった。来客数がますます減り、全然良くなる兆しが無い。
		百貨店（営業担当）	・ガソリンや食品の値上げが続いているので消費意欲は減退する。
		百貨店（販売促進担当）	・秋冬物商品への移行期へ入るが、特に目立ったヒット商品も見当たらず、また最近の状況をかながみても、改善する要因は現時点では見当たらない。現状、価格に対する訴求が効果的であるが、正価品への影響を考慮すると、これ以上の価格訴求は難しい。
		スーパー（経営者）	・節約志向が強くなっている。
		スーパー（総務担当）	・本当に必要な物しか売れていない状況が続いている。
		スーパー（統括）	・ガソリンの高騰で、広域商圏型の総合スーパーへの来店頻度が落ち、小商圏型の店舗の来店頻度は好調に伸びている。ただ、可処分所得の減少で、全体としてはダウントレンドに向かう。
		コンビニ（店長）	・商品の価格が上がってきており、買い控えが出てきている。キャンペーンの展開等により、大きく落ちることは無いが、それでも若干は悪くなる。
		高級レストラン（店長）	・毎月のように値上がりするガソリンや生活必需品等の影響によって、客の財布のひもはこれから固くなる。特に外食費は抑制されやすく、今後かなり深刻な影響が懸念される。
		スナック（経営者）	・どんな売出しをかけても客数に結び付いてこない。
		観光型ホテル（営業担当）	・燃料や食品原材料の高騰により、生活費を節約するとすれば、旅行などを我慢するようになることが懸念され、観光事業などは特に影響を受ける。
		都市型ホテル（支配人）	・夜の宴会、会食の来客数がここ2、3か月と前年に比べ急激に減っている。バーの営業を遅くまでやっていたが、飲酒運転の厳罰化などから前年比3割減であり、バーの営業をやめようとも思っている。
		旅行代理店（副支店長）	・一番の原因として、燃油高騰による物価の上昇、利益の圧迫が響いてくる。また、自動車業界にも陰りが見え始めているのでメーカー等工場の旅行受注が心配である。今後の燃油高で個人の年末年始の売上も心配される。
		ゴルフ場（副支配人）	・今月については入場者は前年を上回っているが、売上が大幅に減少している。単価の面では、入場者獲得のための価格競争が浸透し、平日のプレー費については値下げをし、価格が低料金化している。客も低料金化が浸透しているせいか、価格に左右される傾向が強い。土日祝のある程度単価が取れる時に、なかなか埋まりにくい傾向が出ている。
		ゴルフ場（支配人）	・現在、ガソリンの値上げ、A重油の値上げ、電気料金の値上げと燃料の高騰が続き、ゴルフ場で対応できる限界にきている。また、厳しい暑さが続き、コース散水用の水が不足気味であり、その費用も非常にかさんでいる。また、名義書換えによる新規入会者が激減している。
		競輪場（職員）	・他の競輪場を見ても厳しい状況にある。
		その他レジャー施設〔アミューズメント〕（職員）	・原油高騰により、原価がかさみ、最終的な利益は圧迫される傾向にある。また、原油高騰に伴うガソリンの価格上昇は外に出て活動するという動きにマイナスになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔清掃〕（総務担当）	・原油高の影響でエコドライブや燃料使用量の削減等、社を上げて取り組むことになった。原油高は今後も続くと思われるので、一層の経費削減に取り組むことになり景気への影響は大いにある。
	悪くなる	商店街（代表者）	・夏休みシーズンを迎えるが、北京オリンピックと8月のガソリン値上げにより、例年になく厳しい景気になる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・タスポの導入により、たばこの販売量の売上が約80%減少している。今月、客を寄せる衣料品店が、閉店したのでしばらく影響を受ける。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	・個人消費の落ち込みが感じられる。
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・まもなく北京オリンピックが始まるが、今年はそのようなことが起こっても景気が良くなることはない。また、岩手・宮城地震も発生しており、自分の所でも地震があるのではないかと不安がある。景気が良くなるようには見受けられない。
		百貨店（総務担当）	・商圏内の企業の倒産が見られる。また、周りのホテル、旅館も客数は入っけていても売上や粗利は低下している。諸物価の値上がりで物が動かない。
		衣料品専門店（経営者）	・猛暑と諸物価の値上がりが影響する。
		スナック（経営者）	・男性の小遣いの具合が飲食に一番響いている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・夏場の7、8月は良いが、それ以降は予約件数の受注が前年の半分に至っていない。この状態では、売上がかなり落ち込む。
		都市型ホテル（スタッフ）	・これから秋にかけて宿泊特化型の新しいホテルがまだ2、3件オープンする予定であり、非常に心配である。当店も少しづつメンテナンスしているが、資金が苦しくリニューアルオープンするわけにもいかず、厳しい状況である。
		観光名所（職員）	・個人の所得が減少傾向にある一方、原油高などにより、個人の家計収支は悪化しており、嗜好品やレジャーに対する支出を抑える意識が強い。
		美容室（経営者）	・地方の小都市では、客は車で来店することが多いが、ガソリンが高騰しているため、来店頻度が減るのではないかなど不安材料が増している。
		美容室（経営者）	・これから先は美容院の勝ち組、負け組が非常に色濃く出る。設備投資をする案件も今月は非常に少なくなっている状況なので良くない。美容学校の生徒の通信制の願書も少し悪くなっている状況なので、今後良い方向にはいかない。
		設計事務所（経営者）	・建設予定に対する銀行の貸し渋りが発生している。
企業動向関連	良くなる		
	やや良くなる	食料品製造業（製造担当）	・競合メーカーがようやく値上げをしてきたので、価格帯の差がなくなった。しかし、今月末からフィルムなどの資材が更に価格を上げるので、原価圧迫で利益は再び薄くなる。ただ、当社製品も価格を上げているため、利益は確保しやすくなっている。
		経営コンサルタント	・県北や県南のアウトレットモールの新規オープンや拡張等が、県内外の消費者の動きを誘っており、秋口に向けての消費の下支えが期待できる。
	変わらない	化学工業（経営者）	・既存商品が売れないため、新たな仕事を求めて、厳しい状況の中ではあるが設備投資を始めている。年内にその効果が出てくることを期待している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・当社は今のところ上昇気味で、ここ3か月もこのまま行く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・建設機械の部品は7月から多少増加したものの、自動車関連の部品は自動車各社の下方修正があって、不透明となっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・10月までの受注はある程度確保されているが、11月以降の見通しが不透明である。また、原材料の高騰が仕入部品にも影響しており、値上げ要請の話が多くなっている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・同業者でも悪いところが多くなってきているが、当社の場合は、引き続き好調であり、このまま変わりなく今年一杯は推移する。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・スプレー缶、エアゾール缶、ライター処理装置は役所向けが9割であり、来春も行政としては必ず必要となる。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・客との情報交換の中で、建設業界が良くないという話を聞く。それに伴い全体的に景気が悪いという話がよく出る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業（生産管理担当）	・開発品も含めて、新規の仕事の引き合いはかなり来ているが、2～3か月先に立上がるような案件はなく、現状の落ち込みをカバーできる仕事量を確保できていない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・長期的な契約が全く無く、短期の仕事や試作を拾っている、非常に不安定な状態が続く。
		輸送業（営業担当）	・仕事量の確保は例年並みにはできそうであるが、燃料高によるコストを考えると利益確保は難しい。また運賃アップ等を荷主と交渉中であるが、お互いの妥協点がなかなか出せない状況である。
		金融業（調査担当）	・原材料価格の高騰による企業収益の悪化、物価上昇による消費者マインドの悪化に伴い、節約志向が高まり消費意欲が減退している。北京オリンピック観戦に伴い外出機会は減少し、また、東海北陸自動車道開通により中京関西方面からの観光客の減少が懸念される。
		司法書士	・将来、あるいは何か月後につながる見通しのある仕事が入らない。
		社会保険労務士	・世間話程度であるが、解雇に関する質問が増えてきている。
	悪くなる	食料品製造業（営業統括）	・夏場のワイン消費減少に加え、度重なるガソリン価格の高騰により、旅行を控える家族が多くなる。それに伴い、工場見学者数、売上共大幅に落ち込む。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の来月以降の受注、生産計画は今月同様に厳しい状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・当社は北米の自動車向け部品を作っているが、受注量がごんごん月を追うごとに落ちていて、去年の同時期に比べ3分の1以下になり、惨たんたる状況である。他の部署も前年よりかなり悪い。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・もろもろの価格転嫁についてはメーカー側に要請しているが、自助努力を求められ、厳しい状況にある。減収減益となり、人員削減もやむを得ず、危機感を持っている。
その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）		・夏場の売れない時期に合わせて、マーケット自体が更に冷え込んでいる。8月末から秋向けの展示会が始まるが、商品の開発意欲が出てこない。在庫処分で精一杯である。	
建設業（総務担当）		・建設業は過去に経験したことのないような厳しい状況が続いている。倒産件数も他業種に比べ大変多い数字であり、今後も間違いなくこの傾向は続く。	
広告代理店（営業担当）		・安定的な広告受注があったクライアントの中に、急激な原価高騰による収益の悪化を理由に、新年度4月予算を大幅に見直してきたところがある。エリアを代表するような大手企業がこうなってしまうと、中小零細企業の未来は暗い。	
雇用 関連		良くなる	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（経営者）	・周辺企業も商店の景気は低迷しており、閉店する店舗も目立っている。
		職業安定所（職員）	・あらゆる産業で原油及び各種原材料の値上げの影響を受け、企業の採用意欲は低下している。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・お盆明けあたりから、第二の採用活動のピークが来ると期待していたが、景気の不透明感が予想より早く新卒求人にまで影響が出ており、昨年までの状況とは一変しそうである。特に一般職に対する厳しさは一段と強まる。求人倍率も下降し続けている。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（経営者）	・当社の取引先を見る限り、やや悪くなる。
		職業安定所（職員）	・事業主都合による離職者が増加傾向を示している。
		職業安定所（職員）	・労働者派遣会社やビル管理会社等は大手メーカー工場を相手に仕事の受注を増やして求人が増加傾向にある。その一方で、小規模ではあるが倒産や解雇が出ていて不安材料がある。
	悪くなる		

4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
----	----------	-------	----------------

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・タスポ効果があとどのくらいあるのか、だんだん収束していくのではないかと見通しも持っている。しかし、再開発工事の職人の数がまだまだ増えると聞いており、来客数、販売量共に伸びていく、良い時期がまだ大分続く。
	やや良くなる	一般小売店〔文具〕 （販売企画担当）	・原材料等の高騰に関しては今後も上がっていく。ただし、2～3か月後の9、10月に企業は半期の決算期を迎えるので、この時期に需要が出てくる。現段階において、この夏場に外商等の物件が相当少なくなっている。これは無くなったのではなく、先送りにされているため、この辺りに出てくるのではないかと予測される。
		コンビニ（エリア担当）	・8月末の上期末に向け競争店の出店が予想されるが、タスポ効果が予想以上にあり、約1年間にわたり好調な売上が持続される。
		コンビニ（商品開発担当）	・タスポによる来客数の増加と天候が良いため、売上が上がる。
		乗用車販売店（営業担当）	・9月の半期決算を迎えることをユーザーも分かっているもので、9月まで買い控えをしているようである。
		一般レストラン（経営者）	・重油等の値上げもあるので経営的にはまだまだ厳しいが、7月は少し客が動いて多少は良くなっているため、この流れを引き継ぎ、良くなっていく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊やレストランはこれから予約が入り込んでくるが、宴会、婚礼は新規来館客に対応するベテラン係員に料金の幅を持たせて対応をさせたところ、今年（9、10月）の予約件数、人数が2割前年よりアップしている。また、法人の宴会も今年は日程が集中せずに曜日に関係なく満遍なく受注しており、集客人数が2割程度前年と比較して良い状況である。
		旅行代理店（経営者）	・現在見積等を出して提案しているところの回答によってはいくらか良くなるが、あまり期待はできない。
		旅行代理店（従業員）	・北京オリンピックの影響による7～8月の団体旅行減少の反動もあり、予約ベースでは国内旅行が好調で、各週末は、ほぼどの方面も予約が取れない状態である。
		タクシー運転手	・国土交通省は7月に入ってタクシー規制緩和策、法制度の見直し案を提起し、供給面でも運賃面でも野放図であってはならない、何らかの規制を施さなければならないと結論付けた。再規制として1．台数の規制、2．過度な運賃の規制、3．悪質な業者の排除など、ハイタク界の願いがかないそうである。よって秋の臨時国会後に期待して、今年後半のタクシー業界景気はやや持ち直すとする。
		通信会社（経営者）	・ガソリン等の急な値上がりで消費者の財布のひもは固いが、財布にお金がないわけではない。CATV業者である当社としては、デジタル化の進展と家庭内で余暇を過ごすという傾向が相まって、加入者数、売上は増加する。
		パチンコ店（経営者）	・この夏は暑くなるようで、暑いときは商売が良くなる。また洞爺湖サミットが終わって台の規制もなくなり、人気のある機械が今後入替えになるので、やや良くなる。
		その他レジャー施設 （経営企画担当）	・オリンピックを経て、プロ野球はクライマックスシリーズへ向かうため、シーズン終盤の盛り上がりにより、プロ野球関連商品、サービス並びに周辺ホテルの宿泊など具体的な波及効果が期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	・8月は銀行ローン金利が下がるようなので、今の最低の景気状況よりは良くなるであろうという楽観的な判断である。それから、住宅ローン控除の期限が年内入居になるので、追い込みの需要が期待できる。
		変わらない	一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）
一般小売店〔家具〕（経営者）	・価格が上がり、景気そのものがなかなか変わらない。ただ、リフォーム関係は建物が古くなっている所があるので、これから期待できる。		
百貨店（売場主任）	・景気が上向きに転じる要因が思い当たらない。		
百貨店（広報担当）	・地下鉄新線開通のプラス効果で来客数は7か月ぶりにプラスに転じている。8月には秋色夏素材の新たな商材投入などで目新しさを出して行くほか、上京した地方顧客へは東京土産を切り口に、新鮮なギフトの提案をしていく予定である。しかし、改装工事などの影響もあり、厳しさは変わらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業企画担当）	・価格高騰が現状のまま推移するようであれば、状況は変わらない。
		百貨店（店長）	・消費者を取り巻く環境は、食料品を中心とした製品値上げに加え、うなぎの偽装問題の発覚により食の安全に対する不安が問題視されるなど、比較的堅調であった食料品まで厳しい状況である。また、ガソリンの高騰、株価の低下及び不安定な値動きなど消費全般に対する抑制感が更に強くなり、生活防衛意識はより高くなる。
		百貨店（副店長）	・セール商品のまとめ買いがほとんどなく、単品買いである。買物に慎重になってきており、全体的にますます縮み志向という感じである。
		スーパー（仕入担当）	・商品原価や原油が高騰しているものの、給与は上がらないため、消費マインドは下がる。ただ、食品スーパーは内食する家庭がますます増える事が予想され、対応が必要である。
		コンビニ（商品開発担当）	・物価上昇、所得減少傾向の改善の兆しが見えにくいため、なかなか景気が好転するとは考えにくい。
		衣料品専門店（営業担当）	・改装オープンで10月は忙しくなるよう、秋物の売れ筋の確保ができれば、前年並みの数字が取れる。
		乗用車販売店（経営者）	・整備と販売をしているが、整備は順調に入っている。販売も今月に限り台数が出ている。しかしガソリン価格が上がったことで軽自動車が多くなっている。消費が伸びず高い車が売れないので、まだ当分景気は下向きである。
		一般レストラン（経営者）	・売れないから置かない、置かないから客足が遠のくという悪循環が、仕入先や周辺の商店街にある。それを断ち切って新しい取組みをしない限り、小規模店舗の生き残り策は無い。
		一般レストラン（店長）	・今は底の状態、店を運営していくのがやっとで、これ以上悪くなると店を閉めてしまうほどに悪い。2～3か月先もこの状態は変わらない。食材の値上げ等もあり、今は経営していくのがいっばいいいっばいである。
		都市型ホテル（支配人）	・先々の客動向にも変化は見られず、景気も変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・原油価格高騰により、消費者は海外旅行等の利用を取りやめ、代わりに都内ホテルを利用する傾向がある。しかしながら、総合的に判断すると変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今年はイベントの予約も少ない年で、また宿泊の個人予約の動向も不安定である。一方、婚礼の予約は好調である。
		タクシー（団体役員）	・一般利用者の節約志向が今後も続くこと予測され、さらに現状の供給過剰状態が解消しない限り、この先も大変厳しい経営環境となる。
		通信会社（営業担当）	・北京オリンピックの需要が予想したよりも少ない。
		通信会社（営業担当）	・2011年のテレビ放送デジタル化（アナログ停止）がだんだん近づいており、デジタル需要といった形で少しずつテレビ加入が伸び、インターネット、電話も好調が続く。
		通信会社（営業担当）	・北京オリンピックが終わるとテレビ番組への興味は下がるが、テレビ、新聞、家電量販店等でデジタル放送関連の情報に触れる機会が増えることから、契約件数はほぼ横ばいとなる見込みである。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・原油高、資源高等の影響はさほど無いように見受けられる。ただ、どのような影響もたらされるかは想像もつかない。近年は従来から日本で制作されて人気を博したソフトでも、外国で受け入れられて日本では全くダメというようなソフトもある。
		その他サービス[結婚式場] (従業員)	・組数が減っているが、一件一件の単価は下がっていないため、大きくは変わらない。
		住宅販売会社(従業員)	・不動産業界において、今現在、活性化が全然見受けられない。この先この状況がいつまで続くか不透明なので、変わらない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・収入が増える人がほとんどいない状態が続いている。この状態で物価がどんどん上がるという悪循環が続くので、必要なものは買うが、ものを買う気持ちがほとんど無くなる。何とかしないとどうにもならないという感じで、商店街の皆が同じ気持ちでいる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・ガソリン代が8月にも値上がり、それがエスカレートして一般の食材についてもかなり値上がりしていることから、消費者心理として防衛に入っている。これも一時のことかと思うが、今のところ防衛本能が強く表れ、販売に対して強くマイナスになる。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・まだまだいろいろな業種で値上げが続いており、消費者の購買意欲の低下に加えて、猛暑が続くそうなので、そのあたりでも商品の売上が落ちる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・今まで値上げされていなかったビールも9月に値上がりになるので、その後の売上が心配である。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	・とにかく値上がり終了の文字が見えない限り、良くなることはない。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・今年の夏は暑いために高級煎茶は敬遠され気味である。また、経費削減の客が多く、格安の麦茶等の注文が多くなってきている。客の経費削減傾向から見ても、当分今後の先行きに景気回復の兆しは見えてこない。
		百貨店（管理担当）	・原油価格の高騰により商品の価格転嫁が一巡し、更に値上げせざるを得ない商品があるので、消費者心理としては買い控えが一層高まる感じがある。
		百貨店（総務担当）	・ガソリン代の高騰、物価上昇が、確実に消費者の購買意欲を下げている。今後も小売業、サービス業は厳しい状況が続く。
		百貨店（総務担当）	・消費行動の明確な変化が顕在化している。第一に生活防衛意識が完全に定着し、消費を楽しむ風潮が減退化している。所得水準が維持又は減少しているなかでの消費製品単価の上昇と生活関連コストの上昇が、ライフスタイルの変化につながっていることが要因として考えられる。一方、製品以外の娯楽、教育、自己投資の動向は堅調である。
		百貨店（企画担当）	・様々な価格の高騰が、地球環境の問題を始め、元には戻らない構造的な要因によるものと消費者はとらえており、消費に対して慎重な態度である。
		百貨店（営業担当）	・婦人関連を始め、全部門において昨年は来客数の減少を客単価でカバーして前年を越えていたが、今年では来客数、客単価共に減少しており、今後の景気の不安材料となっている。
		百貨店（営業担当）	・原油高騰の影響は続いており、物価上昇は今後も考えられるなかで、消費者の購買意欲についても陰りが見え始めてきている。衣料品の売上増加が厳しいなかで、今まで堅調であった食料品についても、物価上昇による売上の単純増加は期待できず、扱い品目全体に厳しい状況といえる。
		百貨店（販売促進担当）	・物価高騰基調が続くなか、当面は好転する気配がない。
		百貨店（販売促進担当）	・車での来店が減少している。また、衣料品などはいまだ動きが鈍く、食料品の集客に頼っている状況である。食品関係も値上がりが続いているので、今後に対する明るい材料があまり見えない。
		百貨店（販売管理担当）	・衣料品でもセールを多く投入していく店が増えており、客もますます価格に対する目がシビアになってくる。景気が好転する指標が見当たらず、今のままでは10月以降年末に掛けて更に秋冬物の重衣料が売れないという、大きなマイナスが心配される。
		スーパー（経営者）	・物の値段がどんどん上がり可処分所得が増えないなかで、客の購買心理が節約ムードになり、必要な物も買わなくなっている。また、暑さで客が日中出ないし、暑いために暑くなる料理をしたがらない。それらが重なって現在も良くないが、これから先も良い材料が見当たらない。
		スーパー（店長）	・こここのところの株安を始め、消費者物価の上昇、特にガソリン、光熱費、食品価格の影響度合いが更に加速していく状況にある。
		スーパー（店長）	・生活関連費や食料品の値上げが続くなかで、客の価格志向はより強くなってきている。また買上点数が上がらない状況は今後も続くものと思われる。
		スーパー（統括）	・客の1回の買上金額等を見ていても、上がる傾向にはない。買上単価も以前と変わらない、あるいはやや下降しているように思われる。食品の値上げなどの影響などで、客が非常にシビアな買物をしているのが現状である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・全体的に購買力が締まってきている。原因は諸物価の値上げであり、それに対しての引き締めが消費者においても見受けられる。
		コンビニ（経営者）	・7月の暑さで売行きはやや良くなっているが、終われば売上は下がる。
		衣料品専門店（経営者）	・長期予報だと10月まで暑いとのことで、晩夏初秋も含め秋物商戦の苦戦が予想される。展示会発注以外の現物仕入れが不透明で、今後も気温に大きく左右される。
		衣料品専門店（営業担当）	・景気の低迷で購買意欲が乏しくなっている。今後も期待できない。
		家電量販店（店員）	・今後の身の回りの景気を見てみると、食関係が値上がりをしているなか、物品購入者が減ってくるのは必然である。
		乗用車販売店（販売担当）	・イベントの開催日は来客数が多いが、その他の平日は来客数も少なく、商談も少ない。
		乗用車販売店（総務担当）	・今月のバックオーダーも少なく、8月はさほど台数は望めない、9月に攻勢を図るも、ガソリンの高騰、食料品等の値上がりの中での販売台数及び増収は望めない。
		乗用車販売店（渉外担当）	・依然として消費財値上げ拡大、ガソリン価格にも歯止めが掛からないために家計圧迫が解消されず、一層消費者の購買活動が慎重になる懸念がある。よって車利用頻度にも変化が生じており、販売は苦戦模様である。環境に適したエコ、低燃費車など顧客ニーズをしっかりとらえた商品提供で、前年値確保が課題である。
		乗用車販売店（販売担当）	・燃料、食品関係も高騰しているが、運賃については基本的に据置きをずっと続けさせられている。よって台替えが必要な車両であっても台替えできない、ドライバーの福利厚生もできないということで、今後についてはこの業界はますます悪くなる。物価が上がるならば運賃も上がる、こういう活動をトラック業界もやっていかなざるを得ない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・今、客は値上げという言葉に非常に敏感になっている。日用品は価格で売上が左右されるものが多く、付加価値が付けにくい。薬や化粧品などしっかり提案しているが、来年の薬事法改正に向けての教育が追い付いていない。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・現在夏休み中の書き入れ時でもあまり来客数が上がらないため、3か月後、特にイベントのない月で来客数が上がるとは思えない。
		その他専門店〔眼鏡〕（店員）	・原材料の高騰や物価高が続いているため、販売量が極端に減少してきており、より悪化傾向にある。
		高級レストラン（支配人）	・物価高で、いくらでも安く食事をしようとしている個人客の利用が少なくなると思われるので、やはりなかなか良くはならず、悪くなっていく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・景気が悪く、婚礼の少人数化が進んでいるので、売上が伸びない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ブライダルの予約業務もしているが、予約の状況も思わしくなく、件数が伸び悩んでいる状況である。
		旅行代理店（従業員）	・原油高による燃油サーチャージの高騰を受け、海外旅行の中止、キャンセル等が見込まれる。
		通信会社（営業担当）	・値上げする商品が多く、客はし好品に対しての支出は抑える傾向になる。
		通信会社（総務担当）	・新規契約者数の伸びが鈍くなってきており、近い将来に大口解約の可能性もある。経費節減に一層取り組む必要がある。
		通信会社（管理担当）	・物価高騰の影響により、サービス商品に対する消費支出が削減されている。
		ゴルフ場（支配人）	・前年同期に比べると、向こう3か月の予約の入り方が多少減少している。
		美容室（経営者）	・客がディスカウント店に流れている。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・物価の影響も関係しているのか、少しでも安いコースを取ろうとする傾向がある。よって、前年より売上が下がっている。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・夏期講習生の申込者数が前年比10%マイナスとなっている。
		設計事務所（所長）	・建築全体的に元気がない。ただ単に待ちのみの状態が続いている。何か大きな変化、金融政策なり物価の安定なり、きちんとした方向性が見えない限り下降線をたどる。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場への来客が減っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	商店街（代表者）	・ 乗月もガソリンが6円ほど上がるということで、原油高であらゆる物が全部値上がりし、零細店の多い商店街などはそれを転嫁できないので厳しい。大型店でもスーパーでも価格の競争をしているので、零細店は今後なお一層厳しくなる。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・ 諸物価の高騰等で消費者の財布のひもが更に固くなっている。
		百貨店（売場主任）	・ 今後更に物価の値上がりが予想され、特に宝飾品等のぜい沢品は動きにブレーキが掛かる。
		百貨店（広報担当）	・ ターミナル百貨店の特性上、シーズン始まりのファッションリーダーの消費が少ない上、さらに節約消費志向のご時勢から秋の入り口需要は縮む可能性が高くなっている。そのため、低価格品の開発、投入を急いでいるが、単価ダウンを客数で補えるか微妙なところである。
		百貨店（営業担当）	・ 客に必要な物から値上がりが始まり、家計を圧迫するのは必至である。店頭にいると、客は予想以上に深刻にとらえている。確実に給料、ボーナスに跳ね返り、ますます消費のひもが固くなる。現在、プライスメリットのある商品の展開量を増やし衝動買いを促しているが、必要最低限しか買わず、単価を落とす悪循環になっている。
		スーパー（統括）	・ 当ショッピングセンターの駐車台数が7月に入り前年比85%となり、ガソリン高騰の影響を直に受けている。ガソリン価格の更なる高騰と生活用品の更なる値上がりにより、確実に消費収縮へ向かう。
		スーパー（統括）	・ 原油、穀物相場の高騰により、あらゆる商品が値上がりしている。こういった状況を考えると、消費者の生活態度が買い控え等で一段と厳しくなり、景気の停滞が考えられ、先行きは非常に厳しい。
		コンビニ（経営者）	・ 原油の高騰その他により、商品が軒並み価格アップしているため、消費者が買い控えとなり、消費を抑えてくる可能性を懸念している。
		コンビニ（経営者）	・ プライベートブランドの安い商品及び特売商品のみが売れ、客の買物パターンが大きく変化している。今後の見通しが立てにくい。
		衣料品専門店（経営者）	・ 石油関連商品の値上がりで物価が高止まりしているため、客の生活防衛意識が高く、買物でも1品1品吟味して、余分な物を買わなくなってきた。
		衣料品専門店（次長）	・ 原油高、材料費高が続く限り、気温や流行の追い風があっても好転は見込めない。
		家電量販店（経営者）	・ オリンピック景気でテレビ、レコーダーが好調であったが、その効果が薄れる。また、7月の猛暑によるエアコンの好況も、前年8月のエアコンの実績が高かったことに比べると厳しくなる。
		家電量販店（統括）	・ 猛暑、オリンピック特需が過ぎれば、必ず売上低迷に直面する。オリンピック後、秋の新製品ラッシュによる若干の期待はあるものの、全体に寄与する材料が見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	・ 既に月次持ち越しの受注残等がほとんど無くなっており、8月の夏休み等で更に受注が減るので、2、3か月後は非常にまずい状況が予想される。
		乗用車販売店（店長）	・ ますます原油が高騰し、ガソリン価格が毎月上昇する。金融不安もあり、販売量は非常に落ち込んでいる。また某大手自動車メーカーの販売価格が上昇するので、追随することになる。良い動向は全く見られない。
		その他専門店〔服飾雑貨〕（統括）	・ 原油高騰によるマイカーでの乗客数減少や外食頻度の低下、客単価減の傾向が続く。
		一般レストラン（経営者）	・ 2、3か月先の景気は良くならない。むしろ悪くなる。ガソリンからすべての物価が上がっているため、財布のひもはもっと固くなる。このままインフレにつながるかは分からないが、今まで以上に悪くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 原油の値上がり、それに伴う原材料あるいはエネルギーの値上がりにより、今後も景気が上向き要素が無い。
		旅行代理店（従業員）	・ 現在の原油価格が戻らない限り、国際航空運賃、パッケージ料金への影響が大きく、旅行需要への悪影響は更に広がる。
		タクシー運転手	・ 原油高騰でガソリン、食料品等が値上がり、節約のためにタクシーの利用を控える客が多くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（経営者）	・全体の仕事が減っている。民間の仕事も減っており、行政の仕事も耐震的な仕事のみという、悪状況である。11月には、建築士法の改正があり、下期は非常に仕事の動きが悪く、先が全く見えない状況である。
		設計事務所（所長）	・仕事量が非常に少なくなってきた。各官庁においても予算が無いことから、新築工事ではなく改修工事が非常に多くなっている。この現状は手間ばかりが掛かるということである。いずれにしても建築確認業務の内容を大幅に変えない限り、建設業は上向きにはならない。
		設計事務所（所長）	・役所から出る仕事は新築物件でなく耐震に絡むものが多いが、耐震設計では構造担当者を雇用していることが条件に入ってきている。当社では担当者がいないので今まで取っていた物件も確保することができなくなる。
		住宅販売会社（経営者）	・現在、不動産市場が急激に冷え込んでいる。最近では金融機関の不動産建設業に対する貸し渋り、引きはがしが多くなり、資金繰りを圧迫されているところも多くなっていて、ますます不況に陥る。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・マンションや住宅の販売不振が続いているなかで、大型のデベロッパーが民事再生法の申請に追い込まれるという状況にある。今後も同じようなデベロッパーが出てくると思われるし、その仕事を請け負っていたゼネコンや工務店の仕事も無くなるので、非常に悪い状況になる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・取引先企業から、まず注文の前に電話やFAXが来るのだが、その日々かかってくる数が変わらない。
		化学工業（従業員）	・秋にもまた原料再値上げの動きがあるが、当社としては受注量、生産量の増加の予定は無い。
		一般機械器具製造業（経営者）	・量産でたくさん出ているものが1割強減産になっている。その分、新規受注文分が立ち上がってきて落ちた分をフォローしているが、このままずっと続いていく。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・トラック業界は国内だと良いニュースがないが、中近東、東南アジア、あるいはロシアといった所へのトラックの輸出が順調なようで、春先から落ちることなくやや良い状態でずっと来ている。素材、鋼材はすべてメーカーが管理しているので我々には関係なく、その面で助かっているところもあり、このままやや良い状態で秋口まで続く。
		その他製造業〔ゲーム〕（経営者）	・北京オリンピックと時期を合わせてスムーズにダビング10の導入が図られれば、ゲーム市場にも高画質な物へのニーズが掘り起こせた可能性があった。しかし、その時期が遅れたために好機を逸しているため、このことが影響する。
		通信業（広報担当）	・事業環境のこれ以上の悪化は考え難いが、年内に回復する可能性も小さい。
		広告代理店（経営者）	・大手企業が収益予定を下方修正し始めているが、この修正が我々の業界にどの程度影響を及ぼすかは、まだ分からない。悪化とは言い難いが、良くなる可能性を含むという現状維持でもない。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない。
	その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・マンション建設の落ち込みが影響するが、通信に対する需要は伸び続け、差し引きで現状から大きく変わると思えない。	
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・ビニール、ポリエチレン等を扱っている取引先に聞いたところ、この1年間の間に材料が13回値上がりしたという異常さである。材料すべてが値上がりしても、工賃はそれに転嫁できないし、本当に必要なものを必要な数だけしか作らないため、極小ロット、極短納期になっているので非常にやりにくい。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・依然として原材料値上げの影響がある。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・受注が思うように回復せず、新企画の動きも鈍く、原材料の値上げが続いているため、見通しは非常に厳しい。
		金属製品製造業（経営者）	・二輪バイク、自動車部品は北米向け輸出の大幅な減少のため生産量が減っており、価格の値引きの話が本格化してきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・材料価格の値上がりがかつて製品に響いてくるため、発注する側も控えめになってきていて、成約率が非常に下がっている。したがって、今後も当分は期待できない状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・原材料の高値止まり、あるいは再値上げ等、消費意欲の減退につながるが続いており、これからもそう見受けられる。在庫が増え、生産しても利益が出ないものは減産する方向になる。
		建設業（経理担当）	・近隣に大型マンションが続々と建てられていたが、売行きが悪いとの評判を聞いていた。最近になってそのマンション業者等が次々と倒産しているようである。施工には地元の業者も絡んでおり、他人事ではない。マンションだけではなく戸建住宅も売行き不振が続きそうである。
		建設業（営業担当）	・ガソリンの高騰や鋼材など物資高騰が目立つなか、偽装問題や改正建築基準法などが新聞などで騒がれており、顧客は優良業者を選定していく。したがって、今後業者はふるいにかけられ、客からの発注は控えられていく。
		通信業（総務担当）	・便利ならば多少高くとも利用するという感覚から、便利でも高いので利用を控え、通話利用からメール利用への移行による月額通信利用料の低下が想定される。
		金融業（審査担当）	・取引先の製造業は、原材料やエネルギーの高騰により工場の運営を直撃され、物流の減少と相まってしばらくは厳しい状況が続きそうである。
		金融業（審査担当）	・不動産、建設業のみならず一般業種でも原油高、原材料費高騰の影響で資金繰りがひっ迫し始めており、今後は更に悪化する。
		不動産業（総務担当）	・現状を見る限り、賃貸部門は景気の落ち込みは無いと考えるが、マンション販売部門は購入予定者のマインドが明らかに下がっている。その上、販売価格も建築費高騰の影響で上げざるを得ないので、この先売行きにかなり影響が出る。
		広告代理店（従業員）	・ガソリンの高騰の影響で取引先の車販売、運送関係が良くないので、そのまま当社の業務に影響する。
		税理士	・明るい材料が無い。大手の賞与が前年比で減少しているようでは、中小企業は更に減少し、消費は低迷する。
		経営コンサルタント	・燃料、飼料の高騰が続く、食品、工場の資材、燃料、原材料の高騰も引き続き上昇していく。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・来月以降も燃料費や原材料費等の値上げが決定していることと、取引先の工場稼働率が悪くなる様子で、売上も利益もますます圧迫される。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・契約金額の減額要請が数件来ている。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・今後も仕入価格の値上がり等が予想されるので、これから良くなるようには考えられない。いまだに閉塞感が漂っており、8月の普段でも良くないという状況から、今後はやや悪くなる。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・以前から続く原油高の高騰に伴う影響による。
悪くなる		食料品製造業（経営者）	・客はガソリンの高騰などにより、将来への不安から必要最小限の買物しかしなくなってきた。
		繊維工業（従業員）	・大手デパート各社は、紳士服、婦人服売り場の展示品を20～30%安価なものとする方針を決めた。原油の高騰を始め、諸物価の値上げが続くなかで、私たち国内製造業が得意とする「高品質、高技術仕上げである高付加価値な高額商品」は敬遠され、安価な同一規格商品しか、消費者は眼に入らない状況にある。原材料が値上がりしている分を製品価格に転嫁できずにいる国内製造業は、今後ますます衰退の一途をたどることになりそうである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・このところ受注が極端に少なくなっている。得意客のほとんどが同じような状況にあり、大変困っている。
		建設業（経営者）	・材料が高騰し、客は買い控えムードである。食品も値上がりし、生活水準を下げなくては行けない。良くなる材料が何も無い。
		輸送業（財務・経理担当）	・燃料サーチャージ制を各荷主をお願いしているが、実質の値上げ分に反映されるだけで運賃値上げにこぎつけない。
		輸送業（総務担当）	・会社全体で売上が落ちる一方で、燃油費は確実に高騰し、他のコストもすべて上昇しているのに、荷主も値上げ要請を聞き入れてくれず、運賃、作業賃はいつまでたっても値上げができない。運送業は業種として立ち行かない状態であり、見込みも非常に厳しい状況である。
雇用	良くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連	やや良くなる	学校〔専門学校〕（教務担当）	・コンピューターの専門学校だが、夏休みに入ったにもかかわらず求人のために来校する企業が相変わらず多い。今年度はあきらめるが次年度は是非、という企業が目立つ。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・取引先各社とも景気の先行きに不安があるため、人員調達が慎重になっている。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・大型店がオープンする地域以外は特に好調な業種、業務拡大の動向も見られず、求人に関しては現在と同様の傾向である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・諸物価が値下がり、かつ安定し、世間一般に景気の下げ止まり感が行き渡らない限り、この状態が急に好転するとは思えない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・直接雇用に変更の動きが出始めているため、当業界においては逆風になりつつある。
		人材派遣会社（支店長）	・受注減傾向は変わらず、受注を増やすため、他社との競争による請求単価の下落懸念もあり、良い材料が見当たらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・辞めたスタッフの後任注文が当社に来ないため、派遣先の現場に問い合わせると、現場では後任が欲しいのだが、人事部で許可が下りないとの回答が多い。この傾向は始まったばかりだとのことだが、しばらく続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・通例として景況感の悪化は採用予算に直結するので、良くなるという感じはしない。今後、人材マーケットは厳しい状況を迎える。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人活動が活発化する時期でも、社員、アルバイトを含め、以前のような活発さが無い。さらに企業の収益悪化から採用コストを抑える動きと社内調整を強化する動きがある。
		職業安定所（所長）	・産業別の新規求人を見ると、医療、福祉関係及び教育、学習支援業では引き続き増加しているものの、その他の業種では減少が続くと見込まれる。原油、原材料の高騰から事業活動に影響が出ており、中途採用抑制の動きが広がる懸念がある。
		職業安定所（職員）	・求人数はそれほど増えていないので、今後も再就職が厳しい状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	・景気状況アンケート等によると、まだ人員削減を行っている事業所においても、原油高、資源価格の高騰により、今後検討せざるをえないとの声もあり、厳しさを増している。
		職業安定所（職員）	・原油等、資源価格の高騰等により収益を圧迫されている企業は多く、事業主都合による離職者数も3か月連続で前年同月を上回り、その増加幅は拡大している。諸物価が高騰しているなかで、消費意欲の減退感が感じられるところであるが、必然、国内需要の大幅な増加は見込まれないことから、当所利用の大多数を占める中小企業は雇用を抑制する。
		職業安定所（職員）	・原油高や原材料高騰、値上げをしても買い控えなど個人消費は低迷している状況にあり、企業収益の圧迫が続いている。新規求人数の減少傾向は当面続くと見込まれる。
		職業安定所（職員）	・原材料高の影響が顕著になり、企業の採用意欲が一層弱まることが懸念される。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人募集中の企業にあっても採用基準は高くなってきている。サブプライムローン問題に端を発した貸し渋りや原料高から、企業の採用意欲は更に冷え込む。
		民間職業紹介機関（経営者）	・先の見通しは、少しずつ付きにくくなっている。特に企業の求人動向がかなり消極的な動きになっている。
	民間職業紹介機関（職員）	・関東圏、中部圏以外のエリアがかなり厳しい環境になってきている。また、資源高騰、円高によりメーカーも打撃を受けられるため、今期決算も厳しい予想になり、採用意欲に影響が出る。	
	学校〔専修学校〕（就職担当）	・昨年の求人実績企業の採用意欲が低下気味で、求人数が減少する。	
	学校〔短期大学〕（就職担当）	・原油高騰、食品値上がり等先行き不安定である。企業の方ではそういうところを鑑みて採用を控えたり止めたりしているところもある。	
悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・証券会社や損害保険会社において、契約終了が見込まれている。	
	人材派遣会社（営業担当）	・派遣法の改正など先行き不透明な状況であり、求人数は更に減少する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社 (広報担当)	・材料代が戻っても、リストラしたり操業停止した施設をまた動かす体力が企業に残っていない。

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	乗用車販売店（経営者） テーマパーク（職員）	・秋には各メーカーが主要車を相次いでフルモデルチェンジするので、相乗効果が出てくる。 ・交通アクセスの改善により、今後も好影響が出てくる。
	変わらない	一般小売店〔土産〕（経営者）	・ガソリン高が続く限り、財布のひもは緩まない。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	・諸物価の上昇が続くため、客の財布は一層厳しくなる。地元企業の倒産のうわさが増えている。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食店の来客数の減少は続くため、今後も厳しい状況が続く。
		百貨店（企画担当）	・原油高、原料高の基調は今後も変わらないため、消費が好転する兆しはみえない。
		百貨店（売場主任）	・情報を集めて慎重に買物する客が増加しているため、今後も厳しい状況が続く。
		百貨店（企画担当）	・今後も生活必需品の値上げは続くため、客の購買意欲の減退も続く。
		百貨店（婦人服販売担当）	・ガソリン価格の高騰は続くため、今後も日常生活に影響を及ぼす。購買意欲の低下は続く。
		スーパー（経営者）	・値上げラッシュに歯止めが掛からない限り、回復の見込みはない。
		スーパー（店員）	・商品値上げはまだ続くため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（営業担当）	・当分、原油価格の高騰に伴う商品値上げは続いていく。それにより、買い控えも拡大する。
		コンビニ（企画担当）	・タスポの取得率は急には上がらないため、今後も変わらない。
		衣料品専門店（企画担当）	・需要を喚起できる要素が見当たらないため、今後も買い控えは変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・来月もガソリン、食料共に値上げされる。生活費の抑制は今後も続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・ガソリン価格の高騰は今後も続くため、良くなる要素がない。
		一般レストラン（経営者）	・食材の値上げが続くなか、値上げせずに営業しているため、ランチ客の減少は今のところみられない。今後もこの状態がしばらく続いていく。
		ゴルフ場（企画担当）	・予約数は前年を上回っており、引き続き好調である。また、夏の暑さの反動で、秋には多くの来場者が見込まれる。
		美顔美容室（経営者）	・諸物価の高騰による影響が、今後も続く。
	住宅販売会社（従業員）	・物価上昇により、買い控えは更に進む。	
	やや悪くなる	一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・商品値上げは今後も続くため、当面低単価商品へと流れていき、下げ止まらない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・諸物価の高騰が続くため、採算が厳しくなっていく。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・ガソリン高が続くため、自動車来店する客が減る。
		百貨店（企画担当）	・セール品しか売れず、正価品の売行きは非常に悪いため、来年1月のクリアランスセールまでは非常に厳しくなる。
		スーパー（経営者）	・中小企業の夏のボーナスが悪かったため、所得は増えておらず、今後も消費は伸びない。スーパーの競争も一段と激しくなり、利益は出ない。
		スーパー（店長）	・ガソリン高やまぐる等の水産物を始めとする食品の値上げは今後も続くため、買い控えは一層進む。
		スーパー（店長）	・卵を始め値上がりが続くため、財布のひもはますます固くなる。
スーパー（仕入担当）		・食品全般の値上がり傾向は今後も続くため、消費者の節約も秋口までは続く。	
コンビニ（経営者）		・物価高騰のなか、給料は増えていないため生活が苦しいと言う客が多く、今後も厳しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（商品開発担当）	・タスポの取得者が増加するにつれて、乗客数は減少する。それに加えて、食品やガソリン価格の高騰による消費の節約志向は更に厳しくなっていく。
		乗用車販売店（経営者）	・8月以降もガソリン、食料品等の値上げが予定されているため、消費意欲の改善は期待できない。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格の高止まりにより、車の利用を控える客だけでなく、新車購入を取り止める客も確実に増加する。サービス工場への入庫は減少傾向にあり、この状態が続くと非常に厳しくなる。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格の高止まりにより、高額車両の購入客の減少と小型車へのシフトが続く。
		住関連専門店（店員）	・引き続き、高額商品の売行きは悪くなっていく。
		住関連専門店（営業担当）	・今後予定されている設計、新築等の物件が少ないため、悪くなっていく。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・諸物価の高騰の影響で、売上、経営共に年内は厳しい。
		観光型ホテル（経営者）	・所得が伸びていないことやガソリン価格の高騰が続くことにより、個人客は今後も厳しい。企業関係も、収益が厳しいなか、悪くなっていく。
		都市型ホテル（営業担当）	・個人客は、食材価格の高騰や原油高に伴う節約が続く。法人客も、大企業でも費用を削減し始めているため、宴会利用は減少する。
		旅行代理店（従業員）	・客は生活を優先させ旅行は後回しになるため、販売量はかなり減少していく。
		旅行代理店（従業員）	・燃油サーチャージの高騰に加えて、商品値上げも当分続く。それに伴い、売り手側も利益を削って低価格商品を出さざるを得ないため、悪循環になる。
		ゴルフ場（経営者）	・3か月先までの予約状況を前年同月比でみると、芳しくない。今後は、ガソリン価格の高騰と地元企業の業績不振が影響してくる。
		その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・業績を向上させる企画は、今のところ準備出来ていない。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・取引先からの値上げ交渉が、秋口から本格的に始まる。
		住宅販売会社（企画担当）	・今月は客からの問い合わせが非常に少ないため、2、3か月先の受注は減少する。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・新築等の引き合いが少ないため、今後も厳しい。
	悪くなる	商店街（代表者）	・所得が増加しないなか、これだけ生活必需品の価格上昇が続くと、今後も売れない。
		商店街（代表者）	・諸物価の高騰が続くため、今後も厳しい。
		百貨店（販売促進担当）	・所得が増えないなか、食費、光熱費の値上がりは今後も続く。
		百貨店（販売担当）	・ガソリンを始め諸物価がますます上昇するため、買い控えが続き、一段と厳しくなる。
		コンビニ（店長）	・秋以降に小麦粉の価格が上昇すると、食料品全般の価格が上昇するため、厳しくなる。
		乗用車販売店（従業員）	・燃料価格の高騰が続く一方で、新型車のモデルチェンジに合わせて販売価格の上昇も見込まれるため、新型車の販売効果は弱まる。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格は当面値下がりしないので、当分厳しい状態が続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約はある程度取れているが、客の予算は厳しく、客単価は低下する。
		一般レストラン（経営者）	・ガソリンを始め諸物価が毎月値上がりするため、当店でも近々再値上げをせざるを得ない。
		一般レストラン（従業員）	・原材料価格の高騰によって、今後は販売価格に転嫁せざるを得ない。
		旅行代理店（経営者）	・原油を始めとする諸物価の高騰には、歯止めが掛からない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅建築に対する関心が薄れつつあるため、新たな受注は見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（経営者）	・原材料価格の上昇は頭打ちであり、年後半に掛けて建築需要の回復が見込めるため、良くなっていく。
	変わらない	化学工業（企画担当）	・原油価格の上昇が少し頭打ちになってきているため、原材料価格の高騰による影響は、今後小さくなる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・窯業界の市況は春から夏にかけて下降気味であったが、秋口からは少し持ち直す。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・4月以降、新規案件の問い合わせが少なくなっている。開発投資が少なくなっている様子であるため、今後に向けた拡販のチャンスが減少している。
		金属製品製造業（経営者）	・原材料価格は、引き続き上昇する見込みである。市場も縮小するため、販売競争は引き続き厳しくなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今後は、素材関係、副資材関係の値上げの影響が出てくる。
		建設業（総務担当）	・今後も引き続き、原油価格の高騰がすべてに影響する。
		輸送業（エリア担当）	・荷物量の前年同月比はこの半年間ほど横ばいであり、今後も荷物量は増加しない。一方で、原油価格の上昇に伴い諸経費は高くなっていくため、今後も引き続き厳しい。
		通信業（営業担当）	・原油価格は上昇傾向が続くため、今後も厳しい状況が続く。
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・今後、原油価格の高騰に伴う原価上昇分を、商品価格に転嫁する。それに伴い、販売数量は減少し、利益も圧迫される。
		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・原材料価格の上昇は続くが、販売価格に転嫁できない。転嫁できたとしても、販売量は減少する。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・諸物価の高騰により、今後は消費が減少する。その影響で、受注量、販売量共に減少していく。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・今後も適正な操業度は維持できるが、原材料価格の高騰による影響を受けて、業績は更に厳しくなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・自動車の減産による影響が、今後徐々に波及してくる。
		輸送用機械器具製造業（統括）	・主力取引先からの受注量は、少しずつ減少していく。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・完成車メーカーによる新型車開発の動きがあまりないため、今後は新型車の部品の設計開発部門の仕事がない。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・自動車の減産による影響が、今後は直接、間接に出てくる。
		輸送業（従業員）	・原油価格の高騰と高止まりが続くと、運輸業の倒産が増加する。
		輸送業（エリア担当）	・燃料高、原材料高の影響が広がり、経費が節減されるため、貨物の動きも鈍化する。
輸送業（エリア担当）		・原油価格の高騰に伴い、燃料価格はこれまでも毎月1リッター当たり10円前後の値上げがあったが、8月にも6～7円の値上げをするとの通知が来ている。	
金融業（企画担当）		・企業努力では、今の原材料高には耐えられない。今後も企業収益は圧迫され、不動産の動きも冷え込む。	
広告代理店・新聞販売店〔広告〕		・広告発注の動きは冷え込んでいる。今後も販売管理費の圧縮が続くため、景気は良くならない。	
その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）		・今の案件は半期単位で終了するが、その後の案件がみえていない。	
悪くなる	鉄鋼業（経営者）	・素材の仕入価格の上昇により、今後も採算は圧迫される。資金繰りの厳しい企業の廃業も進む。	
	不動産業（経営者）	・金融機関の運転資金、事業資金の融資姿勢が厳しいため、資金繰りが困難になっていく。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営企画）	・取引先企業の状況をみると、今後も変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・新規の派遣注文に対しては、企業は慎重である。この状況は今後も続き、派遣需要は減少する。
やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・ソフト開発会社からの受注状況は、以前と比べて芳しくない。今後もこの傾向は続くため、年齢の高い技術者から余っていき。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・派遣社員を増員する企業は減っており、注文数は前年同月比で20%も減少している。今後もこの傾向は続く。
		人材派遣会社（営業担当）	・原材料高の影響を受けて、業績を下方修正する企業が出始めている。今後は、雇用調整を進める企業が出てくる。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・自動車関連、電機関連の生産が落ち込んでいる。直接雇用も進んでいるため、請負や派遣の受注は急速に減少している。秋頃までは、この傾向が続く。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・下期の製造業の生産見込みが下方修正されるなど、長期的な見通しが悪化している。そのため、求人数も減少する。
		職業安定所（職員）	・現在、雇用調整を検討している事業所が多数ある。原油価格や原材料価格の高騰はまだ続くため、今後の求人数は減少する。
悪くなる		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・基幹産業の停滞は当分続くため、雇用情勢は悪化する。
		職業安定所（職員）	・燃料費や原材料価格の高騰は続くため、企業収益の圧迫によって、企業の求人意欲は減退する。

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（店長）	・タスポカード効果によるたばこの店頭売上増加は当分続く。
		通信会社（役員）	・8月の北京オリンピック開催を控え、テレビメーカー・家電量販店がデジタルテレビの宣伝・販売を強化しており、この購入者からデジタル契約の獲得が期待できる。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・7月末の水害による消費マインドの低迷に加え、8、9月は残暑が厳しいとの予報があり、夏物衣料の買い足しや秋物衣料へのシフトが難しい。
		スーパー（店長）	・客は相次ぐガソリン価格の値上げにも慣れ、支出を締める習慣ができています。お盆にしても、良い品を必要最小限に絞って買うという態度が続く。
		コンビニ（経営者）	・7月の売上は前年比112%、来客数は同116%と増加しており、この流れは当分変わらない。
		コンビニ（経営者）	・たばこを扱う店ではタスポカード効果で売上が増加しているが、取り扱っていない店の売上は減少傾向が続いている。全体として売上は増えない。
		コンビニ（経営者）	・タスポカードの申込がそれほど増えていないため、当面はたばこの店頭売上増加が続く。しかし、各商品の値上げによるマイナス要素があるため差引きで変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・車の売行き、車種、台替動機などはガソリン価格の動向に大きく左右される。年間の走行距離が多い地方、特に田舎へ行くにつれ、この傾向が強くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車が登場した割には、来場者や販売台数があまり変わらず、この傾向は今後も続く。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・客が住まいの近くで買物をする傾向が見られる。しかし、先行き不安から支出を締める態度は変わらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・郊外立地で店舗規模が大きく、高単価となっているが、ガソリン高や消費低迷のなかで有効な打開策は見つからない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン利用客は回復しているが、一時的なものか、「安・近・短」による需要回復なのか、見極めができない。
		通信会社（社員）	・販売量の増加につながるサービスなどが新たに登場する予定がない。
		通信会社（営業担当）	・7月のボーナス時期は携帯電話の販売台数の伸びが例年に比べ悪く、今後も期待できない。
		競輪場（職員）	・全体的な売上と収益を確保するため、開催日数を増やす対策を予定している。
	その他レジャー施設（職員）	・暑い夏のため、ドリンクの販売数が伸び、飲食部門は上昇傾向にあるが、高単価のマッサージの落ち込みが大きい。当面は現状が続く。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・物価が上昇し、可処分所得が次第に減っているなかで、消費者は生活防衛に入っている。景気も下降気味で、今後の売上増加は難しい。
		商店街（代表者）	・明るい材料が一向に出てこない。ガソリン高が様々なところに影響し、客は守りの姿勢を強める。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・ 来月には更なるガソリンの値上げが予想されており、地方ではより一層家計に響く。この影響が他の消費に及んでくる。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・ ガソリンを始めとする諸物価の上昇に加え、食品の偽装表示が食品を扱う業種で深刻な問題として続く。
		百貨店（営業担当）	・ 消費者は食費の節約に躍起になっており、一方、メーカーでは原材料高から余分な物は一切つくらないという態度である。消費も供給も縮小に向かう。
		百貨店（営業担当）	・ 婦人衣料は晩夏物と初秋物の販売に入っているが、客はなかなか目を向けてくれない。当面は販売員と客のきずなだけに頼る販売となる。
		百貨店（売場担当）	・ 来客数の減少に加え、客の価格に対する厳しい態度から客単価も落ちており、この傾向は今後も続く。
		スーパー（店長）	・ 食品の偽装や値上げラッシュで、消費者の購買意欲が下がる。
		スーパー（総務担当）	・ 消費者はガソリン価格高騰や諸物価の上昇により生活防衛に走り、消費を減らす。
		家電量販店（店長）	・ 客の生活防衛意識は依然高く、高単価商品の動きは今以上に鈍る。
		観光型旅館（経営者）	・ ガソリンや食品の価格上昇による旅行意欲の減退が今後も心配である。また、東海北陸自動車道の開通による人の流れが、当地には逆風になることも考えられる。
		観光型旅館（スタッフ）	・ 7～9月の予約保有は前年並みであるが、10月は前年を下回っており、秋以降の予約に不透明感がある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 予約の状況は前年より悪く、苦戦が予想される。
		旅行代理店（従業員）	・ 物価上昇により個人消費が余暇・レジャーにまで回らない。また、旅行代金も値上がり傾向にあり、マイナス要因となる。
		タクシー運転手	・ 秋口からの観光シーズンに入っても、客の節約ムードが強く、タクシー利用が見込めない。客が夜の繁華街へ出掛ける回数も次第に減少していく。
		通信会社（営業担当）	・ 現在、旧シリーズ携帯電話の値下げが実施され、販売につながっている。しかし、この在庫がなくなれば、新機種がメインとなり、販売数の低下が見込まれる。
		パチンコ店（店員）	・ 最近、リース会社が契約を結んでくれそうな感触になってきたが、この案件が進まないと今後の資金繰りが大変である。
		住宅販売会社（従業員）	・ 資材の高騰など住宅メーカーとしては我慢の限界に来ている。収益状況も悪化しており、価格転嫁に踏み切らざるを得ない。
		住宅販売会社（従業員）	・ 地元ゼネコンの倒産の影響がこれからも出てくる。
	悪くなる	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・ 地元の大手ゼネコンが民事再生法の申請をしており、この影響が出てくる。また、水害で地元の温泉街、茶屋などが大変な被害を被った。大手温泉施設の閉館も決まり、先行きは全く暗い。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・ 全社的に見ても、今後の見込みや引き合い予定が例年になく少ない。また、原油の高騰などで追い打ちが掛かる。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・ 8月以降も諸物価が値上がりし、来客数は増えないばかりか、客単価の低下が続く。
		スーパー（店長）	・ ガソリンを始めとする物価上昇、給与所得の実質減少など、消費にマイナスの要素しか見られない。特に客の態度は食品に対して厳しくなる。
		スーパー（店長）	・ 今後もガソリンや原材料の高騰による商品価格上昇が続く、消費者は更に節約に向かう。地元でも倒産やリストラという声が大きく聞こえる。先行きに閉塞感があり、即効の回復は予測できない。
		スーパー（営業担当）	・ 食品の値上げが順次予定されている。加えて、毎月初めにガソリンの値上げが実施されているため、客の消費マインドが低下し、買上点数も落ちていく。
		衣料品専門店（経営者）	・ 客の不景気感が強く、財布のひもは固い。特に高額商品では極めて悪い。単価の安い物はそれなりに動いているが、それでも前年よりは悪い。厳しい現状はまだ続く。
		自動車備品販売店（従業員）	・ 客は将来の生活防衛に懸命であり、車離れが更に進む懸念がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スナック（経営者）	・一部の客を除いて、経営が厳しいという話題が多く、先行きに明るさが感じられない。
		旅行代理店（従業員）	・9～11月の団体旅行の受注は大幅ダウンの見通しである。また、団体1件当たりの売上が縮小傾向にあり、企業からは出張旅費の削減方法について提案を求められている。
		テーマパーク（職員）	・個人客の利用は例年に比べ悪いが、中でも家族旅行が少ない。客の財布のひもは固く、消費単価は減少傾向にある。今後の予約状況はますます厳しい。
		住宅販売会社（従業員）	・原材料高による住宅価格の上昇がまだ顕著になっていないにもかかわらず、客の住宅購入態度は慎重である。また値下げ要求も強くなっている。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（企画担当）	・短期的対応策として製品価格の値上げを進めており、計画通りに進めば改善効果が望める。ただ値上げによる消費量の減少がどこまで拡大するかにより、効果は大きく左右される。
		金属製品製造業（経営者）	・2、3か月先の受注状況は増加傾向にある。
		税理士（所長）	・原油高や原材料高などの悪材料が出尽くし、取引先では独自に工夫しながら徐々に回復に向かっていているように見える。消費財の値上げや下手な景気対策がない限り、民間企業は状況が安定すれば自立的に上昇する。
	変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	・原材料価格の更なる高騰が予想され、商品末端価格の値上げが避けられず、消費にも影響が出てくる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・国内向け商品の受注水準は以前に比べ低いレベルであるが、低価格商品の受注量は増えている。全体的にはこのままの状況が当分続く。
		不動産業（経営者）	・同業者の情報では、今後の法人案件は全くなく、個人でわずかながら見られる程度である。
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・今後に明るさが見えず、受注の確保が難しい。加えて、電気料金の高騰も予想され、コスト面での圧迫が続く。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・原油価格は高騰し、資材も値上がりしているが、製品価格への上乗せが難しい。このまま販売できたとしても利益は圧迫され、受注の見通しも楽観できない。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・携帯電話関連の売上は横ばいもしくは微減で推移し、自動車関連では特に電装品を多く付けた車種の売上減少が予想される。
		金融業（融資担当）	・建設業での大型倒産や河川はんらんによる災害の影響が関連企業に響いてくる。
		金融業（融資担当）	・原油価格の高騰を理由とする各種物価高がマイナス要因である。
	悪くなる	繊維工業（経営者）	・周辺で信用不安が出始めている。
		建設業（経営者）	・2009年度予算の公共事業費圧縮は、疲弊の極みにある地方建設業者の経営意欲をますます失わせる。廃業しようにも借金のため廃業できない業者、名前だけで建設業とはいえない業者などが、資金繰りだけのダンピング入札に向かい、まともな建設業者は廃業せざるを得ない。
		建設業（総務担当）	・主要な工事資材の価格上昇が収まらず、特に鉄骨等の納期が長期化し、ますます厳しい状況が見込まれる。
	輸送業（配車担当）	・今後、原油価格の急激な低下は考えられず、物価高による消費者の購買意欲の低下が懸念される。	
	司法書士	・老舗の建設業倒産の影響が懸念される。また外車販売業、建設資材販売業等の取引先から“体力の限界”を耳にすることが多い。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・派遣需要件数は減少しており、また企業の人件費削減傾向も強くなっている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業ではコストアップの対応策として、当面は人、物、設備投資を控える。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・派遣需要の低迷に加え、今後、規制強化の動きが予想され、派遣業界全体が厳しい状況に置かれる。
	職業安定所（職員）	・新規求職者数の増加、新規求人数の減少などから、有効求人倍率は下降気味に推移しており、当面はこの状態が続く。	
	職業安定所（職員）	・このまま原材料の高騰が続けば、今まで持ちこたえていた企業も厳しい状態に陥り、求人数が減少する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・原油高は企業の体力を奪い、また家計にも響いており、消費減退に歯止めが掛からない。

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	家電量販店（経営者） 通信会社（社員）	・アナログ放送の終了を控え、テレビなどでのPR効果で認知度が上がるため、購入が増える。 ・販売促進に前年よりも大幅にコストをかけているため、少しずつ効果が出始めている。
	変わらない	一般小売店〔時計〕 (経営者)	・分割払いはもちろん、クレジットカードの利用がほとんどなくなっていることから、先行き不安が以前よりも強まっている。良くなる兆し、材料共に見当たらない。
		一般小売店〔コーヒー〕 (営業担当)	・夏休み中も客が外出を控える傾向にあるため、外食業界では来客者数が減少する。
		一般小売店〔楽器〕 (販売担当)	・様々な商品が値上がりし、趣味になかなかお金を使ってもられないため、厳しい状況が続く。
		百貨店(売場主任)	・今後も店内の工事は続き、売場面積が更に狭くなるため、状況はますます厳しくなる。
		百貨店(売場主任)	・家計収入が増えないなか、価格の上昇や企業業績の悪化など、景気的好転する要因が見当たらない。実用的な商品の売上に大きな変動はないものの、ファッション関連への支出は今後も抑えられる。
		百貨店(営業担当)	・専門店との競争が激しいため、ブランド品の動きが鈍くなる。
		百貨店(営業担当)	・3月ごろから始まった購買数、購買金額の低迷や、百貨店離れの動きは当分続く。
		百貨店(マネージャー)	・原油高や原材料高に伴う消費者心理の悪化により、衣料品を中心としたファッション関連は今後も厳しい状況が続く。
		スーパー(経営者)	・毎日スーパーのチラシが入るため、それによって客が買い回りの状況は当分続く。
		スーパー(経営者)	・大型スーパーでは集客策としてガソリン割引券などを配布している一方、車を使わずに行ける食品スーパーには今まで以上の客が来店している。ガソリンの値下がりには当面見込めないため、外食や大型スーパーなどの客は、今後も食品スーパーに流入することになる。
		スーパー(店長)	・今月から光熱費が上がり、生活水準を維持しようとする動きはますます強くなる。
		スーパー(経理担当)	・価格に対する客の視線がますます厳しくなっており、特売商品の売上構成比が上昇するなど、利益の確保が難しくなってきた。
		コンビニ(経営者)	・以前から客は必要な物だけを買っていたので、不況になってもあまり変わらない。
		コンビニ(店長)	・今後は値上げが本格化するため、来客数、買上点数共に悪化する。たばこの売上についても、タスポの普及率が上がるほか、自販機の24時間販売などにより、徐々に減少する。
		コンビニ(店長)	・タスポ導入から2か月となるが、来客数に変化がないところをみると、タスポの普及が今よりも急激に進むことはない。
		コンビニ(店長)	・今後値上げする商品がある一方、今月のような猛暑が続くことで売上が伸びるため、全体としては変わらない。
		乗用車販売店(経営者)	・ガソリンの値上がりで新車の販売が低迷しているほか、修理や車検の予約も少ない。
		乗用車販売店(営業担当)	・依然としてガソリン価格は高いほか、原材料の高騰で自動車の値上げも始まりつつある。車の需要がなくなることはないが、買い控えは今後も続く。
乗用車販売店(営業担当)	・今の状態がしばらく続くほか、新型車の発売予定もないため、悪い状況は変わらない。		
その他専門店〔宝石〕 (経営者)	・客が手持ちの貴金属、宝飾品を売り、お金の換える動きが更に進む。		
観光型ホテル(経営者)	・先の予約をみても、最近の節約ムードによる影響で非常に厳しい状況である。		
観光型旅館(経営者)	・食材や重油の値上がりで利益が徐々に減少している。消費者が外出を控えているのは明らかであり、今後は厳しい状況となる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型旅館（団体役員）	・当地では車による乗客が約90%を占めるが、原油高で車での来場が非常に減っている。
		旅行代理店（広報担当）	・通常、オリンピック後はその地域への旅行が増えるが、中国に関してはその期待も薄いなど、旅行需要の盛り上がる要因が見当たらない。
		通信会社（企画担当）	・取引先のアミューズメント施設による購買意欲は、直近で高まる材料はないものの、悪化することもない。
		観光名所（経理担当）	・今年の梅雨は雨が少なかったものの、厳しい暑さで人出が少なかったほか、ガソリンの高騰も来客数の減少に影響している。今後も当分はこの傾向が続く。
		その他レジャー施設 [球場]（経理担当）	・8～9月はプロ野球の人気球団の試合が予定されているほか、コンサートや子供向けイベントが開催されるため、来場者が増える。
		美容室（店長）	・今年の夏は暑くなるとの予報が出ており、外出が控えられるため、来客数に影響が出る。
		住宅販売会社（総務担当）	・資材の高騰分について価格転嫁が進んでおらず、今後も苦しい状況が続く。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ガソリンや食料品の値上げが続くため、衣料品の消費はますます低迷する。
		一般小売店 [衣服] （経営者）	・秋商戦は期待薄であり、ビジネスとしては完全な防御体制を取らざるを得ない。
		一般小売店 [衣服] （経営者）	・食品の値上げが予定されているため、秋冬物の衣料品に買い控えが起こる。
		一般小売店 [精肉] （管理担当）	・消費者マインドが落ち込むなか、原材料費の高騰による影響が徐々に広がってくる。
		一般小売店 [菓子] （営業担当）	・相次ぐ仕入価格の上昇で、得意先には値上げ通知を何度も送っているが、2、3か月先には次の値上げが始まる。
		百貨店（企画担当）	・今後も物価の上昇が進むなか、客の間では支出を抑える動きが加速するため、衣料品や高額品の購買意欲は一段と低下する。
		スーパー（店長）	・値上げ傾向の続くなか、食料品は堅調に推移するものの、衣料品や住居関連品の売行き不振が更に進む。
		スーパー（管理担当）	・今のところ来客数は増えているが、値上げが続いているため、今後は客単価の落ち込みが激しくなる。
		コンビニ（経営者）	・値上げ品の買い控えや低単価商品へのシフトにより、客単価が低下する。
		コンビニ（マネージャー）	・タスポ効果が低下するほか、今月の猛暑効果の反動減が起こる。
		コンビニ（店員）	・近くに競合店がオープンしたため、厳しくなる。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・原材料や工賃の更なる値上げが行われる。
		その他専門店 [医薬品] （経営者）	・様々な商品が値上がりするなか、当社の扱っている生活必需品や食料品も軒並み値上がりしている。この傾向から早く抜け出さなければ、客の購買意欲は高まらない。
		一般レストラン（スタッフ）	・原油価格の高騰により、今後は特に郊外型のレストランが打撃を受ける。穀物価格の高騰で仕入価格も上昇することから、売上、コストの両面で大きな影響が出る。
		一般レストラン（店員）	・今月は店がテレビに出た影響で売上が伸びたが、それも徐々に落ちてくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊は現状維持となるものの、宴会は大きな予約がない。さらに、レストランでは来客数の減少に加えて、食材価格の上昇分を販売価格に転嫁できないため、収益が悪化する。
		都市型ホテル（マネージャー）	・8月の予約状況は宿泊、宴会共に厳しい状況である。今後も原材料の値上がり分を販売価格に転嫁できず、収益が大きく圧迫される。
		都市型ホテル（役員）	・秋の繁忙期にもかかわらず、団体客を中心に前年よりも宿泊の予約状況が悪い。宴会の予約状況も前年の8割程度と、今後は非常に厳しくなる。
		都市型ホテル（営業担当）	・宿泊は団体予約が少ないが、直前に予約が変化するため予想が難しい。それに対し、一般宴会はイベントの前売り券も売行きが良く、前年比プラスで推移している。一方、レストランは来客数の減少や原材料の値上がりなど、変わらず厳しい状況が続く。
		旅行代理店（経営者）	・燃油サーチャージの表示に関する通達が出たが、それによる好影響はほとんどない。一方、関西国際空港における減便により、更なる海外旅行離れにつながる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・遅い時間までの残業が減っており、無線で連絡してくる客の数も減りつつある。
		タクシー会社（経営者）	・タクシーの需要は今は底という感もあるが、物価の上昇により、必要のない物にお金を使わない動きがますます加速する。
		通信会社（経営者）	・今年の携帯電話の需要予測は最大で15%減となっている。その一方で、販売店の体制は以前の需要に見合ったものであるため、今後は一定の淘汰が避けられない。
		通信会社（経営者）	・原油価格や原材料費の高騰により、建設業界が更に冷え込むことになる。
		観光名所（経理担当）	・今のところ来客数は前年比でマイナスとなっているが、今年の夏は安近短のレジャー需要が高まるため、近郊からの来場が増える。
		その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・消費者の節約傾向が強まり、同じ催しでも入場者数、売上などで地域格差が広がる。その結果として、地方の景気はますます悪くなる。
		美容室（経営者）	・年配客はお金にシビアになってきているほか、健康の問題などで来店間隔が開いてきているため、先行きは厳しい。
		その他サービス [学習塾] (経営者)	・今年の春に退会者が増えて以降、生徒数の少ない状態が続いている。
		その他サービス [ビデオ・CDレンタル] (エリア担当)	・北京オリンピックの影響でレンタル需要が減少するため、売上は前年比で減少する。
		住宅販売会社（経営者）	・建築設備や資材の価格が前年比で10～20%上昇しており、今後販売価格に影響が出ることは避けられない。住宅需要も低下する一方であり、良い要素が見当たらない。
		住宅販売会社（経営者）	・在庫を抱えた業者による投げ売りがまだ本格的に始まっていない。在庫調整が進むまでは、価格は下がり続ける。
		その他住宅 [展示場] (従業員)	・住宅需要の喚起される要素が見当たらない。住宅ローン控除についても以前ほどの効果がない。
	悪くなる	商店街（代表者）	・まだまだ猛暑が続き、値上げも更に進むなかで、消費マインドは大きく低下する。
		一般小売店 [珈琲] (経営者)	・売上は変わらないが、物価の上昇で買い控えが起こるなど、物の動きが更に悪くなる。
		一般小売店 [雑貨] (店長)	・コンビニでは深夜でもタスポなしで購入できるため、今後当店に客が戻ってくることは難しい。
		一般小売店 [花] (店員)	・例年は盆、彼岸の繁忙期を迎えて売上が伸びるが、今年は節約ムードが強まっており、来客数、売上共に伸びていないため、厳しい状況となる。
		百貨店（企画担当）	・レジ客数の前年割れが続いているため、見通しは厳しい。
		百貨店（商品担当）	・素材の高騰を受け、メーカーでは9月以降の値上げ計画が進んでいる。
		百貨店（売場担当）	・次の秋冬商戦は、一部の商品以外に大きなトレンドや目玉商品が見当たらない。また、業況の悪化に伴って販促経費の圧縮が進むため、来客数も増えにくい。
		スーパー（店長）	・今後も原料高騰による食品の値上げが続くため、消費者の生活防衛意識が強まる。それに伴い、生活必需品への購買比率が更に高まることになる。
		衣料品専門店（販売担当）	・客からは、10月に予定されている公共料金の値上げの話がよく聞かれる。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車業界は厳しい状況にあり、店舗の閉鎖が増えてきている。
		その他専門店 [宝飾品] (販売担当)	・盆休み明けに、倒産する会社が出てきてもおかしくない。
		一般レストラン（経営者）	・材料価格の上昇に、店の客単価の上昇が追い付かない。
		競輪場（職員）	・物価の上昇が収まる気配がないため、レジャー業界の先行きは暗い。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当)	・ガソリンをはじめとする物価の上昇は、レジャーマインドの低下に直結する。
		住宅販売会社（経営者）	・原材料高騰に加えて、ヨーロッパからの輸入建材価格も上昇が進んでおり、今後も厳しい状況が続く。
		住宅販売会社（経営者）	・戸建分譲では、ガソリンや日用品の値上げで主婦のマイホーム購入意欲が著しく低下している。広告、住宅情報誌などをフル活用しても、集客が非常に悪いなど、先行きの見通しは厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（従業員） その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・新築マンションの契約率が悪いので、販売価格の値引き幅はより一層大きくなる。 ・建設、不動産業界は、金融不安が解消されない限りは好転する気配がなく、まだまだ厳しい状況が続く。
企業 動向 関連	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・先の受注量が以前の2倍程度に増えているほか、インターネット事業も拡大しつつある。
	やや良くなる	化学工業（管理担当）	・取引先から明るい話は聞かれないが、最近の原油価格の値下がりでもコストが低下し、個人消費も回復に向かう。また、為替相場も円安基調にあることで、輸出の採算性が幾分かは改善する。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・仕入価格の上昇が経営の足を引っ張っているものの、受注量が増えている。
		輸送業（営業担当）	・ガソリン価格の上昇分を運賃に転嫁したが、荷物量や受注の減少懸念にもかかわらず、今のところは減少していない。
	変わらない	繊維工業（企画担当）	・大手の取引先でも今後の方向性がみえておらず、何をすればよいか分からないとの声が多い。
		金属製品製造業（総務担当）	・原材料価格の上昇に対し、販売価格への転嫁がなかなか進まないため、収益率の低下傾向が強まる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・受注の予定は特にならないものの、最近は一時的に注文が入ってくる傾向がある。
		輸送業（営業所長）	・燃料の高騰が落ち着かない限り、収益の圧迫が続く。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・インターネット広告やポスティング事業者に広告が流れており、折込広告の減退傾向が進む。
		広告代理店（営業担当）	・秋口までは良い材料がない。
		経営コンサルタント	・ここしばらくは現状のような推移が続く。クライアントからも同じような声が聞かれる。
	やや悪くなる	繊維工業（団体職員）	・消費の不振により、外注加工費の上昇分などを価格転嫁しにくいなど、今後も厳しい状況が続く。
		繊維工業（総務担当）	・夏商戦も終盤であるが、注文は例年よりも3割少ないなど、秋に向けての見通しは厳しい。
		金属製品製造業（経営者）	・諸物価の上昇で荷動きも悪くなる傾向にあるため、先行きの見通しは厳しい。
		金属製品製造業（管理担当）	・見積り時よりも材料が大幅に値上がりし、予定の予算では着工できなくなっているため、計画中止となる物件が出てくる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今年度は新規受注案件が減少傾向にある。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・オリンピック後は需要が落ち込むことになる。
		建設業（経営者）	・不動産不況や建設会社への融資引締めなど、明るい材料が見当たらない。
建設業（経営者）		・梅雨明けが例年より早く、降水量も少ないので、秋の天候不順が懸念される。	
金融業（支店長）		・取引先のガソリンスタンドでは、給油単位が今後更に少量単位となり、オイル交換や洗車の需要も減少するため、経営は深刻な状況となる。	
不動産業（営業担当）		・建築コストの上昇により、マンションの販売価格を値下げすることができない。仮に値下げすれば、不動産会社が大変な赤字になる。	
司法書士		・受注の少ない状態が常態化しており、好材料が見当たらない。	
経営コンサルタント		・取引先企業をみても、原材料価格の上昇分のすべてを価格転嫁することはできないため、経営状況は厳しくなる。	
その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）		・値上がりが落ち着くまでは商品の動きも悪い。	
悪くなる		食料品製造業（従業員）	・原料価格の値上げが続くなか、安価受注によるシェアの奪い合いが今後も続く。
	繊維工業（総務担当）	・受注量が減少するなか、採算の合う案件だけを選ぶことで、減少が更に進んでいる。このような状況でも、バイヤーのほとんどは値上げを一切認めないため、繊維関係の中小企業は厳しい状況となる。	
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・原材料の値上げが予定されているが、販売先への値上げ交渉は難航する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（経営者）	・原材料や燃料の高騰分を販売価格になかなか転嫁できず、収益が悪化している。原材料の値上げ幅は徐々に大きくなっており、交渉の余地も少ないため、今後はますます厳しい状況となる。
		化学工業（企画担当）	・中国が一部原料の関税を上げた影響で、今まで原料高騰の影響が小さかった添加物が高騰し始めている。これまで安価であった魚油ですら高騰しているなど、企業努力の範囲を超えた状況は今後も続く。
		金属製品製造業（営業担当）	・素材インフレに加え、景気悪化による売上減少で経営がますます苦しくなる。
		金融業（営業担当）	・今後もマンションの買い控えが続くことから、マンションデベロッパーなどの不動産業者の間では破産が増える。
		広告代理店（営業担当）	・売上の前年比は、今年に入って月を追うごとに低下しているため、先行きの見通しは厳しい。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・今後数か月は派遣先企業からの求人数の回復、増加は見込めない。それに伴い、派遣稼働者数も前年並みの推移となる。
		人材派遣会社（経営者）	・一般派遣はかなり堅調な動きであり、オーダーは入ってくるものの、人手は十分ではない。この状況は今後も続く。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設下請の求人などの回復にばらつきはあるものの、全体としてこれ以上は減りようがない。ただし、業者からは好材料も聞こえてこない。
		民間職業紹介機関（支社長）	・複数名を採用する企業が減り、新たに求人を出す企業もあまり増えない。ただし、中堅、中小企業を中心とした若年層や技術者などへの求人は、今後も底堅く推移する。
	やや悪くなる	人材派遣会社（支社長）	・派遣会社、派遣社員による事件の影響で、以前に比べて派遣に対する風当たりが強まっており、求職者の間でも派遣を避ける人が増えてくる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・秋以降、合同企業説明会を始めとした企画を立てているが、現時点ではセールスが苦戦している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・営業に力を入れているものの、料金面や効果面で苦戦が続いているなど、今後も新聞求人は厳しい状況が続く。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・しばらくは悪い状況が続く。転職市場は低迷しており、新卒市場も求人数が抑制傾向となる。
		職業安定所（職員）	・更なる原油の高騰で企業活動が鈍くなるため、求人数が減少する。
		職業安定所（職員）	・新規求職者については、事業主都合の離職者が前年比で9か月連続の増加となっている。原油や原材料価格の高騰が続いていることから、この状況は当分続く。
		職業安定所（職員）	・来年3月卒業予定の新規高卒者の求人は、予想に反して好調となっている。ただし、これは長期の採用計画に基づく製造業の求人増によるもので、短期の好不況に応じて人員調整を行う小売業からの求人は急減している。
悪くなる	職業安定所（職員）	・新規求職者数が減少傾向にある一方、在職求職者の求職相談は増加が続いている。特に、派遣、請負労働者の間では先行きに対する不安から、若年労働者を中心に正社員への転職希望が強まっており、相談に訪れるケースが目立ち始めている。	

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（エリア担当）	・暑さ寒さは一過性のものであり、地域の取引店舗数は増加していることから、売上は増加傾向を続ける。買い控えが見られたとしても、値上げの寄与が上回ると見込んでいる。競合他社とのパイの取り合いも、あまり悲観していない。
		コンビニ（エリア担当）	・今後もたばこの売上増や、たばこのついでに何かを購入するという傾向は続く。
変わらない	一般小売店〔靴〕（経営者）	・本来ならば3か月後は新しい季節になるが、高温が続き残暑が10月半ばまで続くとの予報なので、秋物の展開ができず、このままの状態が続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		百貨店（営業担当）	・ガソリンや食料品など生活用品の価格高騰が続き、解消される見込みはない。また、残暑・暖冬も予想されるので、消費の拡大が見込めない。	
		百貨店（営業担当）	・秋物の動きを見ても新しいトレンドがなく、大きく売上が回復する見通しが立たない。	
		百貨店（販売促進担当）	・生活必需品の値上がりが続いており、服飾、雑貨、外食に経費をかけない傾向が続いている。現状は消費が下がり続けているというより、低いところで水平線を描いている。	
		百貨店（購買担当）	・ガソリンや食品の値上げが来月以降も続くという報道が先行して、生活必需品以外の洋服や宝飾について、客は購入意欲を失っている。アパレル業界でも、これといったヒット商品が生まれず、2～3か月先も不安定なまま厳しい状況が続く。	
		百貨店（販売担当）	・まだまだ残暑が厳しく気温が高いなか、秋物商品の動きは鈍い。そのため、衣料品は引き続き苦戦を強いられる。	
		スーパー（管理担当）	・物価高騰により消費者の購買点数が必要最小限にとどまっている。またガソリン価格高により、更に出費を抑える傾向があり、需要が伸びることは考えられない。	
		スーパー（販売担当）	・客数は増加しているが、まだまだ商品の値上げが続くので、買上げ点数や購入金額は伸びにくい。	
		コンビニ（エリア担当）	・たばこを置いているコンビニでは、タスポの影響で売上が伸びている。ただし、タスポ導入時に比べると、客の増加率も徐々に下降し始めるので、今後はあまり変わらない。	
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・物価の高騰が影響しているので、ここが改善されない限り、衣類はなかなか回復しない。	
		家電量販店（店長）	・オリンピック景気と言っても売上は伸びず、諸物価の高騰により、客の財布のひもは固くなっていく。	
		乗用車販売店（サービス担当）	・景気を大きく変化させるような施策が投入される予定がなく、新車販売についても、状態が大きく変わる要素がない。	
		乗用車販売店（販売担当）	・春先投入された新製品の効果も薄れ、今後は現状が続く。	
		高級レストラン（スタッフ）	・月によって波がある。今月・来月はまずまずだが、9月は予約が厳しい状況にあり、良い時もあれば悪い時もあるという状況は変わらない。	
		都市型ホテル（従業員）	・宿泊予約状況を見ると、団体は前年より増加見込みだが、個人予約が伸び悩んでいる。	
		タクシー運転手	・7月は賞与の時期のため期待したが、そのプラス部分が全部生活費の補てんに回っており、タクシーに乗る客が増加する要因は見当たらない。タクシー離れ、公共交通機関の利用の増加などを考えると、今後も厳しい。	
		通信会社（社員）	・物価高の影響で通信サービスなどの経費を抑制される可能性がある。しかしガソリン代などの出費を抑えるため、通信を利用した遠方とのやりとりが増える可能性もある。	
		通信会社（総務担当）	・契約獲得向上の好材料がないことや、大手通信事業者の攻勢等により、厳しい状況が続く。	
		テーマパーク（広報担当）	・お盆が連休なのである程度の来客数は期待できるが、それ以外の日は今月同様に低い水準となる。トータルで言えば今月と同じくらいである。	
		ゴルフ場（営業担当）	・良くなる素材がない。ガソリンの高騰により、サービス産業関連から客が遠のいている。	
		設計事務所（経営者）	・身の回り品の値上げが響いているのか、住まいの面まで消費者の気持ちが行かず、需要増が望めない。	
		やや悪くなる	商店街（代表者）	・業種によっては良いところもあるようだが、現状の商店街の店舗構成では、良くなる要因が見当たらない。
			商店街（代表者）	・物が売れないため、小売の各店とも価格を下げる傾向にある。
			一般小売店〔酒店〕（経営者）	・仕入れ価格の高騰が今後も続くことが決定的な状況であり、消費が低迷する。値上がり幅が20～30%の商品もあり、販売面の不安材料である。
			一般小売店〔印章〕（営業担当）	・昨日の市内の経営者が集う会合において、原油高騰を受けてこれから経営が厳しくなるとの発言が多く、町全体でも大変厳しくなることが見込まれる。
百貨店（販売促進担当）	・8月には更にガソリン高騰の見込みであり、帰省客及び旅行客の減少が懸念材料となる。また、食品を中心に価格の値上げが予想され、消費環境は更に悪化していく。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場担当）	・ガソリンなどの相次ぐ生活必需品の値上げで、現在好調なアイテムですら危うくなる。ますます最低限必要な商品以外の買い控えが進む。
		スーパー（店長）	・天候の影響もあって、地元生産のトマト・きゅうり・なすなどの夏野菜の大幅な下落がどこまで続くか分からない。また、ガソリンなど燃料の更なる値上げや肥料・飼料の大幅な値上げにより、農業・漁業など一次産業の多いこの地域の景気が良くなる気配はなく、売上は厳しい。
		スーパー（店長）	・ガソリン価格の値上げに伴い、いろいろな食品の値上げが、消費者の購買意欲を圧迫し、景気が良くならない。
		スーパー（店長）	・原油の高騰でガソリン代の値上げが続いている。そのためかどうか、客単価が低下している。実質的なコストは上昇しているため、今後若干厳しくなる。
		スーパー（店長）	・まだガソリンが上がるという報道もあり、余分な物は買わないという心理が働き、景気はますます悪くなる。
		スーパー（店長）	・原油高のあおりを受け、消費動向全体が悪くなっている。
		スーパー（総務担当）	・店内で客と話をすると、決まって「高くなったね、ガソリンも高いし」と言ったような話しか出てこない。さらに盆明けから値上げになる商品の通知や、話が出ている。
		スーパー（経理担当）	・諸物価の高騰による影響がかなり出てきている。企業倒産も出始めており、地域全体でも見通しは暗い。
		スーパー（財務担当）	・商品の値上げが今後も続くものと思われ、生活防衛のための買い控えがある。
		コンビニ（エリア担当）	・現在の良い状態は高気温・好天候のためであり、3か月後は元に戻る。また、競合・異種競合の出店が現在も進んでおり、影響がある。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリンは値上げが続き、乳製品等来月からの値上げ商品も多い。今後の売上は悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・更なる原油価格の高騰が見込まれることから、ますます個人消費が冷え込む。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・8月以降残暑が厳しい予想なので、その分秋物の立ち上がりが遅くなり、売上の状況は厳しい状況になる。
		家電量販店（店長）	・今は猛暑ということで、季節商材・冷蔵庫等が良く動いており、オリンピック関連で、映像商品も良く動いているが、今後はこの動きも止まり、買い控えが出てくる。
		家電量販店（店長）	・猛暑とオリンピック需要で8月までは需要が見込まれるが、以後は大きなイベントもなく、諸物価の値上がりにより耐久消費財への消費者の投資が冷え込む。
		家電量販店（店員）	・ボーナス需要、オリンピック効果で今月は良かったが、2～3か月先は落ちる。
		家電量販店（予算担当）	・今月の業績は季節天候といった外的要因によるもので、消費マインドの基調には大きな回復が見られず、俗に言う「財布のひもが固い」状態となっている。これからしばらくは調整期間が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・何といたっても石油価格の高騰がすべての物価を押し上げている状況のなかで、いろいろな面で悪影響を及ぼして、客から購買意欲をそいでいる。
		自動車備品販売店（経営者）	・販売努力でカバーしているが、来客数の推移や主力商品の動向から見ても回復の兆しは見られない。ガソリン価格の上昇次第で、一層の厳しさを覚悟している。
		自動車備品販売店（店長）	・来客数・販売量・客単価とも低く、回復の兆しが見当たらない。
		その他小売（営業担当）	・このまま生活用品の物価が上昇すると考えられ、嗜好品の購買は下向きになる。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・食の安全の問題から始まり、ガソリン代の高騰、食品物価の値上がりと財布のひもはこれからも固くなり、明るい要素が見えてこない。夏休みの客足も悪い。
		観光型ホテル（経理総務担当）	・最盛期である夏休みは、例年並みの入込が確保できそうでも、9月以降は期待薄である。ガソリン価格の上昇は、想像以上に旅行意識を減退させている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏休みに入っても、前年より予約の入りが少なくなっている。ガソリンの高騰が、マイカーでの旅行を控えさせているのではないかと。
		旅行代理店（営業担当）	・客の動向も悪く、岡山県の財政赤字など、身の回りにも良い話題があまりにない状況である。これほど不安だらけの状況では個人の客は旅行に目が向かない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	設計事務所（経営者）	・地元大手不動産会社の経営破綻が報じられるなど、建設投資に関しては不安要素が多く、これからも厳しい。
		住宅販売会社（販売担当）	・展示場イベントへの来場客数が、今月も前年比3割減となり、今後売上が伸びない。
		商店街（代表者）	・ガソリン代の高騰に端を発して、いろいろな物の値上げが続いているし、これからも続きそうである。特に岡山では、県財政の破綻という報道もあり、良い材料は全くなく、不安ばかりで消費行動も悪くなる。
		商店街（代表者）	・卸価格の上昇が売価の上昇につながり、客の購入数量は減少する。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	・過去にもこういった悪い傾向の時期はあったが、今回は購買力が低下しているうえに、物価が次から次へと上がっている。より一層景気の動向は悪くなる。
		一般小売店（経営者）	・ガソリンが再々値上げということで、世間では想像以上に先行き不安感が増大し、購買意欲が減少している。
		一般小売店（営業）	・地方経済は疲弊しており、物価高で賃金が上がらない状況では、小売店も良くなりようがない。
		百貨店（売場担当）	・百貨店、スーパー、専門店など、このすべてについて好調であるという店の話を聞かない。さらに大手婦人靴問屋が倒産したため、70万足と言われる在庫処分品が全国に散らばり、市場が荒れる。また更なる経費削減が見えており、自力回復も厳しい。
		スーパー（店長）	・売場で客と接していても、機能性より価格で購入を決定する客が圧倒的に多い。高単価の物は敬遠されて、なかなか売上増につながってこない傾向にあり、今後ますます拍車が掛かる。
		スーパー（経営企画）	・当社では価格の安いプライベートブランド商品の売れ行きが非常に良くなり、客はノーブランド商品にこだわらなくなった。取引先の物流業者の話によると、物流倉庫はどこも在庫で一杯で、物が動いていない。景気が悪くなる前は、いつもこうであるとの話である。
		コンビニ（エリア担当）	・物価上昇の上限が見えていないので、良くなることはない。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・本当に客は無駄な物は買わなくなっており、店に行くと欲しくなるからと、ウィンドウショッピング自体を控えている声も多いので、まだまだ厳しくなる。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・8月には、近くのスーパーマーケットも店を閉じる。そういう不安材料ばかりで、明るい材料が見当たらない。
		一般レストラン（店長）	・夏休みに入ってから、例年に比べ来客数・単価共に極端に下がっている。原油高や増税に歯止めが掛からない限り、来客数が伸びる要素はない。
		都市型ホテル（経営者）	・様々な物の値上がり影響し、会社の収支を圧迫する。こうしたことから企業、個人共に、利用を控える傾向にある。
美容室（経営者）	・月によって波はあるが、最近は悪い月の方が多い。これから先も、この傾向はしばらく続く。		
住宅販売会社（従業員）	・客の様子に将来に向けての不安感が強く現れていて、買い控え傾向が強く見受けられ、改善の様子は無い。		
企業動向関連	良くなる やや良くなる 変わらない	-	-
	変わらない	鉄鋼業（総務担当）	・直近の景況感ではエネルギー・原材料価格高騰による悪化傾向が出てきている。また、北米での自動車販売予測が悪化傾向にあるなど先行き不透明感もある。ただし現在のところ鉄鋼需要は堅調であり、高生産が持続している。
		金属製品製造業（総務担当）	・得意先が受注している機械について、得意先の客から「納期をずらしてほしい、突然キャンセルになった」との情報が入ってきた。当社の年内の生産にはまだ影響はなく、堅調なまま推移していくが、来年以降、先行きに陰りが見えつつあるとの判断をせざるを得ない。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・生産資材の高騰による生産コストの悪化から、製品の販売価格を値上げすることに決定したものの、今後の需要動向が懸念される。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・原油高及び米国向け大型車販売不振で、自動車関連は在庫が膨らむ予想もあり、生産調整がかかりそうである。エアコンは国内は前年と変わらずも欧州向けが前年を下回る予想で終わりそうで、携帯関連も不振で良い話が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・原油高騰にもブレーキが掛かってきた感があり、ガソリン価格も落ち着いてきそうである。また自動車メーカーもコンパクトカーの販売への営業集中化、またBRICSなどへの販売地域拡大もあり、自動車の販売・生産台数は安定してくる。
		建設業（経営者）	・本来悪いながらも少しずついろいろな仕事が生活化してくる時期だが、今年はなかなか難しい。これから先期待はしているが、3か月程度では回復は望めない。
		輸送業（運送担当）	・原油価格の高騰が落ち着かない限り、回復は見込まれない。
		通信業（営業企画担当）	・法人通信サービスの客層にとっても、企業活動の原材料コストアップはダメージであり、通信業界側から商品価格の値上げや新たな商品投入は難しい。さらにFTTHを主体とした廉価ブロードバンドサービスが普及し、高規格・高価格の品質重視型は勸奨しづらい時期が今後しばらく続く。
	やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・会社が業務提携を行い、原料等を安く仕入れる物流網はできつつあるが、燃料の高騰により光熱費が圧迫され、これから先良い結果が現れるとは思えない。
		化学工業（総務担当）	・原燃料価格が高騰し続け、製品への価格転嫁が難しい状況も続く。
		化学工業（総務担当）	・原材料の高騰がとどまることがなく、先行き心配な状況である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・生産量は現在並みには確保できそうだが、原材料価格は高騰が続き収益性は悪化の一途をたどる。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・今後も受注量・生産高共に横ばいの状況が続くと思われるが、諸物価の高騰・高止まりに加え、人件費・社会保険料・税金などの負担増などで、コスト増大が収益を圧迫し、先行きが大変に懸念される。
		建設業（経営者）	・少し回復基調にあった民間の設備計画も取り止め、延期が見られ、競争の激化が益々激しくなっていく。
輸送業（統括）		・燃料代の高騰分が客に転嫁できない限り、景気の回復は難しい。	
金融業（営業担当）		・材料の値上げが一番大きい。建築業関係では、鋼材の値段は倍になり、労務費は半分になったという状況である。物の値段は上がり、人件費は下がるので、消費行動にも影響が出るのはよいよ避けられない。また中国産を扱う業務スーパーへの人の流れも変わってきている。	
	会計事務所（職員）	・ステンレスに代表される鉄等を含めた材料費関連の値上がり厳しい。また、燃料費も値下げされる見通しもなく、プラス要因が見つからない状況は続く。そのため、新規受注の確保にも慎重にならざるをえないと考えている事業所もある。	
	悪くなる	コピーサービス業（管理担当）	・建設関係の不況により、今後の発注量は見込めない。情報セキュリティの観点から紙保存の見直しも見受けられ、コピー量は減少傾向にある。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	学校〔短期大学〕（就職担当）	・介護職、製造職、人材派遣等の求人は届くが、一般事務系の求人は伸び悩みである。今後も改善はしない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・新卒採用を大量に行っていたため、現時点では人員充足感があり、退職補充のための派遣社員の需要は一定期間落ち着く。
		求人情報誌製作会社（担当者）	・採用予算を従来通り組むことに対して、見直す声が聞かれるようになった。
		職業安定所（職員）	・正規求人から非正規求人やパート求人への切替えが進み、今後も正社員求人は減少する。
		職業安定所（雇用開発担当）	・原材料高を製品等に転嫁できる企業と、できない企業があり、窓口の感覚では、できない企業が大多数である。今の原材料高が長期化すれば生き残れない企業がこれから出てくるのが予想され、今すぐというわけではないが、雇用調整に関する電話相談もある。
	民間職業紹介機関（職員）	・人材不足の医療・福祉関連業界の求人数は別として、正規雇用の求人数の取り消しや、採用人数の減員が発生しており、これからも続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	職業安定所（職員）	・原油価格の高騰の影響等による企業利益の縮小により、新たな人件費を捻出することは不可能に近い。地元企業では現在の従業員の雇用確保を第一に考えている事業主が多く、賃金の切り下げや経費削減でしのいでおり、企業に余力がないため、今後への新たな求人意欲は望むべくもない状況となっている。
		民間職業紹介機関（職員）	・地場上場会社の民事再生、地場基幹産業の業績悪化、請負単価の下落等、明るい材料が見えない。

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる			
	やや良くなる	商店街（代表者）	・飲食店を中心に若手の経営者による空き店舗への出店が出てきた。それに伴い秋口に向けて、夕方、夜の客が増えて売上も上昇してくると思われる。	
		乗用車販売店（営業担当）	・当社は8月末に新型軽乗用車を発表するため、新型効果で良くなる。	
	変わらない	百貨店（売場担当）	・必要なものしか買わない傾向が強まっているため、秋物商戦は苦戦が予想される。	
		スーパー（店長）	・大きな変化はないが、ガソリン、その他の値上げの程度で景気が悪くなる。	
		スーパー（店長）	・厳しい状況に変わりはないが、ガソリンや食品の値上げが落ち着けば現状と変わらない。ただし、惣菜や売れている食品を中心の品ぞろえ（種類や内容量）や価格、販売方法の強化が必要だと感じている。	
		乗用車販売店（従業員）	・県内の新車販売の動きを見ても、良くなる兆しが全くない。8～9月に各社新型車が出るが、販売量が上昇するとは考えにくい。	
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格の高騰に伴い、3,000cc以上の中古車は売れなくなっており、価格が大幅に下がっている。	
		観光型旅館（経営者）	・3か月先が、特に悪くなるような予約状況ではない。旅行業界は、原油高で交通関係にも大きな問題があり、先が見えないということもあるが、極端に悪くはないと思わない。	
		旅行代理店（従業員）	・秋の行楽シーズンに入るが、物価高で節約ムードになっており、旅行は相当影響を受けると予想している。	
		タクシー運転手	・例年10月は売上等が下落するが、今年は、高知市内は特区の指定になり、全国でも4県（北海道、長野県、高知県、沖縄県）増車を認めない、新規参入もダメということで、タクシー業界は底である。	
		タクシー運転手	・各種の物価高騰により、利用客の増加は期待できない。	
		タクシー運転手	・また来月もガソリンが値上げという話であり、タクシー利用を控える動きがますます大きくなる。	
		通信会社（支店長）	・総じて景気は緩やかに回復の兆しが見え隠れしているが、現状とほとんど変化はないものとする。	
		通信会社（管理担当）	・新規需要は年度当初から想定を下回る状態で推移しており、取替需要については、端末のサイクルがやや長期化することが想定されるため変わらない。	
		ゴルフ場（従業員）	・来客数が横ばいになっている。予約も今年は少し弱めになっており、全体的に不景気になっている。	
		やや悪くなる	商店街（代表者）	・必需品と良質な低価格商品しか売れない。百貨店やス・パ・の時代も終焉に近い。
			百貨店（営業担当）	・ファッション商品のクリアランスは単品買いに終始し前年割れとなっている。ラグジュアリー商品も過去になく落ち込んでいる。ファッション感度の高い商品ほど購入意欲が見られない。
			百貨店（営業担当）	・いろいろな物が値上がりしている状況に歯止めが掛らないことで、生活に不安があるため、少しは蓄えを考えて、消費は消極的になり、更に景気は悪化すると思われる。
			百貨店（販売促進担当）	・新規出店の影響が関係してくる。
		スーパー（企画担当）	・値上げ報道のあおりで、消費者心理は冷え切っていると考えられる。値上げ部分のクローズアップにより、一時期安心・安全を求めていた消費者心理が陰り、値段の安さばかりが強調されてくる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（財務担当）	・食の問題で中国産から国内産への回帰が加速しており、需給バランスから国内産の価格が高止まりすれば、更に消費が冷え込むことが予想される。
		コンビニ（エリア担当）	・コンビニエンスでの消費者の動向は、変わってきている。価格上昇による財布の引き締めというのを感じている。今後、3～4か月後、半年後に掛けて景気が良くなる、あるいは財布のひもが緩くなるということは感じられない。
		衣料品専門店（経営者）	・8月は、メーカーの協賛を得て、このままバーゲンを延長することで売上が維持できると思っている。全体としては、ガソリンと同時に生活関連商品が非常に値上がりして、客のマインドが冷え込んでいるため先行きは厳しい。
		衣料品専門店（経営者）	・ガソリン、食料品などの値上げが心理的に実際の購買力以上にマイナスに作用しているように感じられる。衣料品業界の先行きは非常に悲観的である。
		家電量販店（店長）	・エアコン等の夏物に牽引されて数字は好調だが、それ以外のテレビ、パソコン等の売上は非常に厳しい状況である。この傾向が今後も続くと思われる。
		家電量販店（営業担当）	・今月はテレビの需要が上昇しているが、今後は、良い要因が見つからない。
		乗用車販売店（従業員）	・慢性的なガソリン高騰と景気の先行き不透明感で、自動車の販売は落ち込みを続けている。当面、新型車の発売もなく、景気が良くなる要素は見当たらない。
		乗用車販売店（管理担当）	・ガソリンの高騰も、相当な悪影響になっている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・現在は、中元時期で良いが、2～3か月先の我々の業界は、年末までの間に売上の悪い月がある。
		一般レストラン（経営者）	・外食を控え、家で食事をする傾向にあり、昼のランチだけでは非常に苦しい。
		一般レストラン（経営者）	・価格の上昇に歯止めがきかないため、数量の減少で支出を抑える傾向が出てくると思われる。
		都市型ホテル（経営者）	・販売単価が低い状態は続く。現在の予約状況も良くはない。諸物価の値上がりに伴い、ホテルでの飲食は抑えられてくるようになる。
		競艇場（職員）	・石油、食料品など昨今の物価上昇で、レジャーに対する支出を抑える傾向が続く。
		悪くなる	
一般小売店〔酒〕（販売担当）	・当地では収入の減少傾向が継続している反面、食品・酒類の価格上昇は激化している。		
スーパー（店長）	・客は買物の内容を、1～2ランク、前年に比べて落としている。今後も値上がりが続く、物価上昇の不況になると思う。		
スーパー（店長）	・県内大手ゼネコンの倒産に伴った連鎖倒産が相次いでいる。やはり物価の上昇、原油高が、非常に県内に影響を与えている状況で、県内の消費は冷え込む一方である。		
衣料品専門店（経営者）	・物価上昇による服の買い控えをしている。		
住関連専門店（経営者）	・原油や食料品が値上がりしているため、2～3か月先は消費が落ちて悪くなる。		
その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・物価の上昇により真っ先に支出を抑えるのが外食であることから、当社は一番に影響があり、状況はこの先もあまり変わらない。		
観光名所（職員）	・原油や物価の高騰によって、消費がかなり冷え込んでいる。		
美容室（経営者）	・このまま各種方面での値上げが続けば、さらに消費が低迷し、景気の悪化が加速する。		
設計事務所（所長）	・新築の建物が非常に少なくなり、業界でも、倒産のうわさがたくさん出ている。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・建築業界は相変わらず悪いが、当社の得意先の状況から、年末に向けて受注量が拡大すると思われる。
		建設業（総務担当）	・地場大手建設業者の倒産により、過剰な価格競争を見直す機運が高まりつつある。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	・冬場になってくると、冷凍麺が良くなると思うが、その他の商品がどのようになるかが問題である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・今のままで推移すれば、とても採算は取れない。小売業の抵抗が強くて、なかなか価格に転嫁するのが難しい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・個人消費の低迷が継続している。
		建設業（経営者）	・建設資材の値上がりが続く、ますます利益が少なくなる。
		広告代理店（経営者）	・流通関係の新規オープン後の販促広告は多少見込めるが、車のディーラー関係等、従来の得意先の広告費削減が大きく、厳しい見込みは変わらない。
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・販売先の小売店の状況は厳しく、当社からの値上げにも拒否反応がある。原油価格、食品の値上りによって消費者心理が冷え込んでおり、今後一層この状況は強くなってゆく。
		鉄鋼業（総務・人事統括）	・所得が伸びないなかで物価の上昇が顕著である。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・トラックの値上げの影響で小型クレーンのユーザーの購入マインドは大幅に低下しており、今後の販売台数にも影響が出る。高所作業車も通信業界の商談が大幅に減少しており、厳しい状況が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・当方は、設備業で機械も作っているが、大変引き合いが少ない。あっても先方に単価を決められるというような状況である。見積、提案、色々な形で客と接するが、非常に減っており、昨年の半分ぐらいの引き合いで、非常に厳しい。
		輸送業（役員）	・原油価格の高騰により、様々な原価にその影響が及び、一般消費に加え設備投資にも閉塞感がある。
		通信業（営業担当）	・原油価格上昇は止まったが、ガソリンは8月上旬にも再値上げが予定されており、買い控え、行動の抑制などの影響で個人消費がしばらくは改善すると思えない。
		通信業（部長）	・新商品の販売開始など消費拡大への手掛かりはあるものの、ここ数か月の販売実績から見て販売数量の拡大が期待できる状況は考えにくい。店舗への来客数も低位に推移している。
	悪くなる	不動産業（経営者）	・不動産業者だが、ずっと悪い状況が続いている。今の状況で好転する要素は見当たらず、更に厳しくなることが予想される。
		輸送業（経営者）	・物価の上昇やガソリン高騰等、不安材料しか浮かんでこない。
	雇用関連	良くなる	-
-			-
やや良くなる		-	-
		-	-
変わらない		-	-
		-	-
やや悪くなる		求人情報誌製作会社（編集者）	・造船関連以外で堅実な求人ニーズはなく、総じて県内では、途中で優秀な技術者や営業スタッフを補充しようという動きは今後も見られそうにない。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・景気向上の気配が感じられず、雇用が減少傾向にある。
		職業安定所（職員）	・6月の新規求人は、前年同月比9.8%、349人減少した。なかでもサービス業が、34.1%、404人減少したのが目立った。
		職業安定所（職員）	・新規求人、就職者共に正社員採用の減少が目立っている。
		民間職業紹介機関（所長）	・人の採用について有料の紹介会社を使う企業の比率が減ってきており、採用費を削減する企業が増えつつある。
		学校[大学]（就職担当）	・求人件数と求人者数で見ると、6月の累計が73件（467人）、7月の累計が59件（379人）と、やや減少の傾向が見えてきている。
悪くなる		人材派遣会社（支店長）	・サブプライムローン問題や原油高による景気後退感、派遣業界の暗い話題などの影響は大きい。
		新聞社[求人広告]（担当者）	・急激な物価高による将来の生活への不安が解消されない限り、消費マインドは冷え込んだままである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・どの企業もコスト増が深刻だが、消費が冷え込むなか、価格転嫁に踏み切れない零細・中小が多くなっている。パートの正社員化も進まず、逆に正社員をリストラして、パート化するという情報も多数入ってきている。

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	ゴルフ場（従業員）	・夏の厳しい日差しもあり、現在ゴルフプレー客は少ない。しかし、9、10月の予約は前年より増えており、地元より県外客が増えているので、若干見通しは明るい。
	変わらない	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・特にイベントもなく、良くなる気がしない。魚を取り巻く環境が本当に悪い。
		百貨店（企画）	・物価の値上がり傾向が続いているため、今以上に消費に対する防衛意識が働く。
		百貨店（業務担当）	・客から、現在生活に困っているわけではないが、これだけ先行きに不安材料があると金は使えない、という話をよく聞く。客の貯蓄性向が高まっている。
		スーパー（店長）	・8月に向けて原油価格が上がるため、余暇の過ごし方が安近短となり、レジャー産業が厳しい。消費も郊外店より近場の店となるため、スーパーマーケットへの需要増にも期待しているが、景気の流れは変わらず、厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・経営環境は厳しいが、省エネ、エコ関連商材は新規需要として伸びる。身の回り品については、気温に左右されるが、商品を適量、適価に見直しているため、あまり変化はなさそうである。
		スーパー（総務担当）	・食料品を中心に商品の値上がり感が全体的に浸透し、必要最低限の物だけを買うという傾向が続く。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・全体的に商品の単価が少しずつ上がっているのを、客は肌で感じている。プラス1品の買上が以前にも増して少なくなった。この傾向はしばらく続く。
		住関連専門店（経営者）	・諸物価の高騰で、消費者は家具の買い換えを控えているようである。先の見通しは相変わらず厳しい。
		スナック（経営者）	・今後もいろいろな物の値上がりが続くため、当店はし好的なものと捉えられ、利用が控えられる。
		都市型ホテル（副支配人）	・これから秋にかけて、需要をもたらず大きな団体や大会はない。個人の動きは非常に弱く、この傾向が今後も続く。
		旅行代理店（従業員）	・夏休みの旅行はマイカー利用の旅行が弱く、国内の公共交通機関を利用した旅行が多くなっている。また、暑さのせいが海辺の施設が良い。この傾向が今後も続く。
		タクシー運転手	・今から夏のイベントがいろいろあるが、例年なら大手企業が参加する催物等があったものの、今年はなかなかそのような企業がない。また、夜の祭りに出かける人が少なく、露天商が今年は売れないと話している。
		ゴルフ場（支配人）	・ゴルフ場への来客数から判断すると、特に大きな減少傾向はない。現在の傾向が続く。
		理容室（経営者）	・ガソリン高騰等の影響で、おしゃれに関する財布のひもは固くなる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ガソリンのほか、乳製品等の食材も値上がりし、ますます消費者は生活を切りつめて生活防衛に入る。
		商店街（代表者）	・物価上昇に関する新聞等の報道が客の購買に非常に影響し、客が守りに入っている。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・当店の商品はどちらかと言えば冬場商品のため、早く涼しくなることを期待しているが、物価上昇に伴い客の買い控えがあり、今後の売上に大きな期待は出来ない。
		百貨店（販売促進担当）	・セール等での客の反応が悪く、今後更に原油高等のニュースが出てくると、客の購買はますます減少する。非常にムードに弱い国民性を小売の現場では感じる。
百貨店（販売促進担当）		・石油が値上がりし、様々な物の価格に影響が出てきているので、購買数が減少する。	
百貨店（売場担当）		・8月は猛暑日が続くとみられ、さらに、オリンピックが始まることで客は外に出ずテレビを見る。オリンピックのある月はいつも購買を期待できないため、悪くなる。10月については、近隣に大型商業施設が開業するため、その影響が懸念される。よって今後2、3か月は今の状況を下回る。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場担当）	・今月は婦人服のセールが好調であったが、これは景気が良くなったというよりも客の価格に対する反応が一段と強くなったことの現れである。これからの秋物、冬物については、客は価格に対して非常に厳しくなるので、販売量も減少する。
		スーパー（店長）	・競合店が1店舗閉鎖し、来客数は増えているが、客単価、買上点数が伸びない状況が続いている。さらに、ガソリンの高騰により買い控えする客が増える。
		スーパー（店長）	・今後も商品価格の引上げが続く。客の収入が増えない分、ますます節約志向が高まり、必要以外の買物を自粛する動きが出てくる。秋の行楽レジャーについても、安近短の傾向になる。
		スーパー（企画担当）	・原価条件が良い共同購入商品やPB商品でさえも、連日のように夏以降の値上げや減量(実質値上げ)の要請がきている。従来の店内販促強化やチラシ商品の見直し等の対応では、値上げ分を吸収することが難しく、更に価格転嫁への対応が必至となることから、石油関連製品のみならず食品にも大きな影響が出る。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・物価の高騰が続くとの予測があり、客は更に商品を選別し購入することを考えると、客は必要最低限の物しか買物しなくなる。
		衣料品専門店（店員）	・ガソリンが高くなると、家族でショッピングセンターに遊びには来るが、あまり買物はしないので、売上は厳しくなる。
		家電量販店（店員）	・オリンピックが間近に迫り、大型テレビや地上デジタル放送対応のパソコンがもっと売れなくてはならない時期であるが、伸び悩んでいる。原油高等の影響から消費者の購買行動がシビアになっており、耐久消費財の購入は非常に厳しい。ただし、猛暑なのでエアコンは売れている。
		乗用車販売店（従業員）	・燃費の良い車が出てこない、客は車に関心を持たない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の仕入価格及び小売価格は先行きが不透明であり、現在の価格が高止まりかどうかも予想できない。客の様子では、マイカー及びレンタカーの使用を中心とするレジャーは敬遠気味である。梅雨が例年に比べ早く明け、暑い夏が到来したので、例年なら燃料油の販売量が伸長するが、現在の推移をみるとあまり期待できない。
		高級レストラン（経営者）	・8月は帰省客も少なく、秋口にかけてもあまり予約が入っていない。
		通信会社（業務担当）	・8月は夏のキャンペーンに期待したいが、ガソリンを始めとする物価高で携帯電話の買い控えが起こる。価格面の上昇もあり、販売数は伸びない。
		競輪場（職員）	・前年に比べ来客数、販売額が減少傾向にあり、回復の兆しが見えない。
		競馬場（職員）	・来場者数が増えているにもかかわらず、客単価が落ち続けている。この傾向が今後も続く。
		住宅販売会社（従業員）	・今月は土地仲介関係の問い合わせがなく、営業の材料がない。今後、全体的に収支のバランスが取れず、景気は悪くなる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・中元商戦が盛り上がり欠け、これから先も来客数、売上共に上がる様子が見えないので、悪い状態が続く。
		百貨店（営業担当）	・来客数は増えているが、買上率は低下している。客の必要な物以外は購入しないという傾向がますます強くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・8、9月は気温次第で売上が伸びる可能性もある。しかし、3月以降のタスポカード導入による効果が減少傾向にあり、ガソリン、原材料高騰による客の動向も懸念される。売上が伸びる要素はほとんどない。
		コンビニ（販売促進担当）	・給料、ボーナスが上がらないなかで売場の回転も悪く、厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（店長）	・客は相変わらず必要最小限の物、量しか買わない。この傾向が今後も続く。
		家電量販店（店員）	・7月は、気温の上昇とオリンピック需要でテレビやエアコンの売上が伸びた。しかし他の商品の売上が悪く、必ず反動が出てくるため、今後は悪くなる。
		設計事務所（所長）	・ガソリンもさることながら、生活必需品や食料品等の価格も高くなっているため、個人住宅の着工件数は落ちてくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・今の夏場の景気は焼き物業界には一番底である。秋口には荷動きもいくらか出てくるが、ガス料金や、石こうの価格が3～4割上がるため、苦しい状態である。
		精密機械器具製造業（経営者）	・客の様子や仲間の情報によると、そろそろ良くなっていく。
	変わらない	農林水産業（経営者）	・暑い夏の到来で、ビール商品に準じた焼鳥の需要が期待されるため、居酒屋関連は順調である。冷食メーカー向けも素材納品の国産志向の高まりと、秋口にかけて12月需要の生産が始まるので多に期待できる。ただし値上がり感から、主婦層の危機意識が強く、スーパー関連は一段と厳しくなりそうである。
		食料品製造業（経営者）	・ここ2、3か月は、結果として売上が上昇傾向で推移してきた。しかし、業界の情報からはこれ以上の好転材料は特にないので、季節変動を考慮すれば今月と変わらない。
		鉄鋼業（経営者）	・建築物件の減少による建材需要の減少、建築コストの高騰による資金繰り難などのため、建設関連業界では信用不安が増し、業務活動も低迷する。
		一般機械器具製造業（経営者）	・ハイブリッドカーに関する引き合いが若干出てきている。他の業種からの参入が考えられるので、コスト競争が激しくなる恐れもあり予断を許さない状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・金型業界は3か月先の状況も悪い。特に半導体、リードフレーム、コネクタ関連、樹脂成型金型等で、現状と同じように低調に推移する。精密部品加工、半導体製造装置も低調であり、なかなか先行きは厳しい。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・受注の変動はほとんどなく今のところ期待できない。
		不動産業（従業員）	・福岡市内の賃貸オフィス物件が供給過多で、空室率が上昇気味である。今後も賃貸部門は厳しい状況となる。
		広告代理店（従業員）	・7月の新聞折込枚数は前年比98%と前年には届かなかったが、最近の傾向ではまずまずの受注量である。中元商戦も一山越えたが、大きく落ち込むことはなかった。8月は年間通して最も受注量が少ない月のひとつであるが、ここを前年並みの枚数が維持できれば、下期に期待が持てる。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・飼料価格は今以上に上がる見込みであり、販売価格はある程度上がっても厳しい状況になる。
		窯業・土石製品製造業（取締役）	・鋼材の高騰が相当厳しく、海外との取引もだんだん厳しくなっていく。特にメーカーとしては原材料の高騰を価格に転嫁できないので、相当厳しくなっていく。
		金属製品製造業（企画担当）	・売上が伸び悩むなか、原材料を始めとするコストは増加する。価格転嫁したいが競争が厳しく、売上に悪影響を及ぼしかねない。業績悪化要因ばかりで、好転する材料は見当たらない。
建設業（総務担当）		・マンションの下請工事を受注する予定だったが、発注先のデベロッパーの資金手当てが不調に終わり、計画自体がなくなった。このような状況が今後も続く。	
輸送業（従業員）		・軽油価格の高騰への自力対応には限界があり、サーチャージ導入を進めているが、荷主各社も原油高の影響を強く受けており、荷動きに悪影響が出ている。	
輸送業（総務担当）		・今後も値上げが継続すると予想され、消費者の買い控えや消費に慎重な態度が今後も続く。しばらくは現状よりやや悪くなる。	
金融業		・今はまだ企業体力で持ちこたえている企業や業種の業況が、更に悪化へと向かう。景気は悪くなる。	
金融業（営業担当）		・物価高騰が当面続くとみる中小企業経営者、個人事業主が大半で、設備増強や売上増加に伴う資金調達（借入）を見合わせている。	
悪くなる	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	・主力取引先である中小企業では、原油を始めとした資源高の影響が企業業績を圧迫し始めており、これから更に影響が本格化してくる。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・前年末ごろから悪化感があったが、今年に入ってから落ち込みが急激である。8月は客先は休暇に入るので、営業活動もままならず、悪化するばかりである。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・燃料費、材料費は下がる見込みがない。受注量も、オリンピック特需が起こるとは考えられないので、しばらくは長期的な不況に入っていく。設備投資も銀行の貸し渋りがあり、八方ふさがりである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（従業員）	・市場の冷え込みがますます厳しくなっている。また、マンション建設の停滞や原材料の高騰等、厳しい状況はまだまだ続く。見積案件が増加傾向にあるのは少し良い傾向であるが、競争が激しく、受注獲得に向けて厳しい数字で臨まなければならない。
		金融業（得意先担当）	・現時点において発注がない。例年であれば10月以降に新規の発注が見込まれるが、災害の復旧工事等も見込まれず、今後の見通しがまだ立たない。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない		
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・人材派遣の規制をしても、企業は正社員で雇用しない。周辺企業のほとんどが現社員への仕事負担増になると考え、正社員を増やせば企業の利益確保が厳しいと回答している。一方で、正社員になれず派遣でしか働けない人の職を失うこともあり、失業者は増える。
		人材派遣会社（社員）	・物価高の影響が、今とは違う方面でも出てくる可能性があり、ますます人件費に対する予算は少なくなる。
		職業安定所（職員）	・最近、資源価格の高騰及び消費低迷等による新規求人数の減少傾向が目立ち始めた。また、建設業等の事業所廃止等を主な原因とする新規求職者の増加が今月もみられた。新たに人員削減があるとの情報もあり、今後も景気は徐々に悪くなる。
		職業安定所（職員）	・大手造船所の景気が良く、大量の求人募集があった。しかし、中小企業の不景気と相殺すると、やや悪くなる。
		民間職業紹介機関（社員）	・派遣人材に対するイメージの悪化と諸物価高騰が、企業の派遣需要を抑制している。ここ1～2年の間に企業が直接採用した契約社員、正社員が定着化すれば、当面の間、大幅な派遣需要の増大は見込めない。ただ、コールセンターなど要員をアウトソースする業務は今後も需要が見込めそうである。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・秋採用に向けての求人情報が例年よりも少なく、採用環境の悪化傾向が続く。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・企業の採用控え及び社内調整が続かなかでは、景気回復はあり得ない。ただ、守りに入っているという見方であれば、1年後には回復する。
		民間職業紹介機関（支店長）	・長期契約案件が相当数減少し、かつ成約率も低下している。営業職・販売系人材の需要は比較的堅調だが、短期・単発案件が増加しており、業績向上にはあまり効果がない。

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・タスポが導入されたことで、コンビニに来店した中高年の男性客が、品ぞろえと買物のしやすさを理解して売上が上昇する。
	変わらない	スーパー（経営者）	・相変わらず食料品の値上げは続いているが、売上、来客数共にほぼ前年並みで推移しており、このような状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・タスポ導入効果で売上増となりコンビニにとっては追い風が続く。しかし、たばこを買い求める場所が集約されただけで、その他の商品への価格に対する客の意識は厳しいままである。
		衣料品専門店（経営者）	・7月の初めはセールの客が多く、売上、商品の単価、客単価共に悪かったが、後半に入ってからプロパーの客が多くなり、良くなってきている。ただし、市場としてはあまり変わらない。
		観光型ホテル（商品企画担当）	・9月の販売受注ペースは前年比95%程度で、若干遅いが前年並みに近づく見込みである。
		通信会社（店長）	・販売台数減少への打開策は見当たらず、年末商戦まではこの状態が続く。
やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・原油高騰の影響によるガソリンや食料品を中心とした物価高の進行が速やかに収束するとは考え難く、夏季賞与の使い道もかなり堅実な動きになると予期されるため、晩夏から初秋の衣料品の動向にも悪影響がある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（職員）	・ガソリンの異常な値上がりや、諸物価の高騰により国民の旅行環境はますます厳しい状況にある。県外観光客に頼る沖縄観光も厳しい状況が考えられるがこれから夏本番を迎えること、国民の沖縄への好感度等を考えると前年度並みの観光客数は維持できる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・中心商店街では、一般的な買回り品の店は段々減って、ほとんど観光土産関連の出店になっており、供給過剰である。売れているところは売れているが、平均的にみるとパイの奪い合いの状態にある。地元客は、生活用品の購入には少し離れた外周部の郊外店に流れている。
		一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	・現状の来客数や客単価を見ても、また同業者と話をしても良く見える要素が見当たらない。逆に、どこまで悪くなるかに不安を感じる。これまで夏場に稼いで冬場は耐える経営であったが、夏場が例年以下だと事業の継続も難しくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・原油及びその他商品の値上がりに伴い、消費は冷え込んでいる。何らかの打開策が見つからなければ回復は難しい。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・売上の減少を受けて経費を削減するため、売場を縮小中である。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・常連客から、「家計が苦しくて小遣いを5,000円減らされた上に、車のガソリン代が5,000円ぐらい増えたので、外食する余裕が無くなった」「たばこをやめようと考えている」などの声が多く聞かれるようになってきている。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（営業担当）	・建築業界に関しては現在建築申請受注自体は伸びているとのことで、建築許可の流れがスムーズになればそれに付随する家電や電材など流通量が増えてくる。また食品関係は、商品代金への転嫁が以前に比べ積極的になっているので、一般的にも受け入れについて妥協せざるを得ない状況となっている。
	変わらない	建設業（経営者）	・引き合い件数の動きが鈍い。
		輸送業（代表者）	・8月後半からの公共工事の集中発注が始まるため、現状の好調さが堅調に推移される。
		通信業（営業担当）	・ソフト開発業で景気が良くなる要因が見当たらない。
		会計事務所（所長）	・ここしばらくは、経費のコスト増を回避するのは限界であり、将来的には値上げ、サービス面での配慮が必要になる。
	やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・新規依頼はある程度あるが、大口ユーザーや他企業の更新の動向が不透明なところがある。大口ユーザー企業に会社存続にかかわる不安定な動きがあるが、事態によっては派遣の数字に大きく影響が出るおそれがある。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・原油高がいろいろな方面に影響を及ぼし先がみえない。不透明な状況のなか、悪くなる傾向がある。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・県外求人が低い数字で、また管内の有効求人倍率が2か月連続で0.4倍を下回る。原油等資源価格の高騰で企業の現況は厳しく、さらにガソリン価格が上がり、消費者が本格的に生活防衛のため余分な支出を抑える行動が考えられることから、状況は悪くなる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・景気後退の感は否めなく、人員不足ではあるが採用する資金が足りないと漏らす県外企業が多くなってきている。
	悪くなる	-	-